


# ネイチャーSBTs 企業マニュアル

自然に関する科学に基づく  
目標を設定する



SCIENCE BASED TARGETS NETWORK  
GLOBAL COMMONS ALLIANCE

本資料はSCIENCE BASED TARGETS NETWORK GLOBAL COMMONS ALLIANCEによる原題「CORPORATE MANUAL for setting science-based targets for nature」をCDP Worldwide-Japanが仮訳したものです。日本語版と英語版で内容に相違が生じている場合には、英語版の内容が優先します。



**企業が公平で  
ネイチャーポジティブな  
ネットゼロの未来に向けて  
信頼できる行動を  
とれるように。**



/// 私たちは今でこそ、どこに努力を注ぐべきで、行動を最も必要とする場所を把握しています。SBTネットワークのおかげで、我々は自分たちの経験だけに基づいた改善から、地球にとって適切な目標へとシフトできました。///

ALPRO

/// ネイチャーSBTs(自然に関する科学に基づく目標)を設定することで、他の枠組みへの道も開かれます。少なくともデータの観点から言えば、そのプロセスは極めて厳格で科学に基づいています。気候と自然は深く関連しており、SBTネットワークは、レジリエンスな食糧モデルを作るための明確な道筋を示しています。///

BEL GROUP

/// SBTネットワークは、我々が自然に与える影響と依存における理解を深めさせ、行動すべき分野の優先順位付けや、サプライヤーとの関わり方を変え、トレーサビリティとデータの透明性を高める一助となりました。///

GSK

# 序文

読者の皆様へ

SBTネットワーク(SBTN)の目標設定プロセスを可能な限りアクセスしやすく実行可能なものにしてほしいという企業の要望に応じて、ネイチャーSBTs企業マニュアルを皆様にご紹介できることを嬉しく思います。

本資料は、企業の持続可能性の専門家や自然分野の責任者のネイチャーSBTs(自然に関する科学に基づく目標)設定を支援することを目的としており、明快さとシンプルな言葉に重点を置いており、現在まで(2024年7月時点)の当ネットワークの技術ガイダンスの多くを抽出しています。これらを通して経営陣との対話で賛同を得たり、必要なリソースの割り当てやスタッフやコンサルタントへの説明の準備を支援することで、目標設定の基礎が築かれます。

公式ウェブサイトではインタラクティブバージョンもご利用いただけます。これらを活用いただければ、貴社関連チームはウェブサイトのリソースライ

ブラリにある包括的な技術的手法を使用できるようになるでしょう。

先駆者である目標設定企業と支援パートナーに心から感謝します。彼らの深い見識のおかげで、私たちは実現可能性と科学的厳密さのバランスを最適化することができました。

SBTNでは、自然の損失を食い止め、逆転させる上で企業が果たす重要な役割を信じています。科学に基づく目標を設定し、実行することは、人間と自然が共存し、ビジネスも発展できる持続可能な社会の実現に向けた重要な一歩です。本マニュアルは、持続可能性への取り組みをこのより広範な使命に結び付け、信頼できる行動をとるために必要なツールとリソースを提供します。

**Jess McGlyn**

Corporate and Partner Engagement  
Director, Science Based Targets Network



**/// 基づく目標を設定し実行することは、人間と自然が共存し、ビジネスも発展できる持続可能な社会の実現に向けた重要な一歩です。///**

# 目次

読むにあたって	1
ベストプラクティス: ネイチャーSBTsの設定の準備	3
SBTネットワーク資料の紹介	9
ステップ1: 自然への影響を分析・評価する	15
ステップ2: 活動を解釈して優先順位を付ける	35
ステップ3: 淡水目標の測定、設定、開示	52
ステップ3: 土地目標の測定、設定、開示	77
目標の認定	84
今後の技術ガイダンス	92
今後の展望	98
クレジットと謝辞	101

# 本マニュアルを読むにあたって

ネイチャーSBTs企業向けマニュアルは、ネイチャーSBTsを設定する準備をしている企業の持続可能性の専門家や自然分野の主導者を対象としています。

本書では、SBTネットワーク(SBTN)の既存のすべての目標設定に関する技術ガイダンスの概要を提供します。これらを踏まえて、目標設定の次の段階へと進むための理解を深め、より効果的な支援を受けることができます。

本マニュアルは、最新の科学と規制の進展に基づくガイダンスと方法のすべての進歩を組み込み、不定期に内容が更新していきます。

この企業マニュアルはネイチャーSBTsの技術ガイダンスの 2024 年 7 月リリースを、ステップ 1:分析・評価(V1.1)、ステップ 2: 解釈と優先順位付け (V1.1)、およびステップ 3 淡水: 測定、設定、開示(V1.1)に基づいて関連するすべての検証要件を含め統合したものです。

本マニュアルには、ステップ 3 土地: 測定、設定、開示 (V1) とステークホルダー エンゲージメント ガイダンス (V1) の概要も記載されています。

加えて、「ステップ 3: 海洋」、「ステップ 4: 行動」、および「ステップ 5: 追跡」の生物多様性に関する追加情報の今後発出されるの資料概要も紹介しています。



## SBTN出版物内の使用言語に関する重要な注意事項：

私たちは、Science Based Targets イニシアティブ (SBTi) および国際標準化、規格統一組織 (ISO) に沿って、「shall」、「must」、「should」、「may」などの用語を使用しています。これらの用語は、以下の意味を示すものとして解釈されます。

- このドキュメント全体では、「required」、「shall」、または「must」という用語が使用され、目標が基準に準拠するために必要な内容を示しています。
- 「recommended」および「should」という用語は、推奨事項を示すために使用されますが、要件を示すものではありません。
- 関連する用語「may」または「can」は、許容されるまたは許可されるオプションを示すために使用されます。(訳注)必須条件が日本語内で明確になるように、本日本語訳内では、必須の場合、つまり、shall、must、required を使っている場合、使っている語句を文中・文末に入れていきます。

# 本マニュアルでできること

本書は、ネイチャーSBTs(自然に関する科学に基づく目標)を設定するための入り口として役立ちます。具体的には下記が可能になります:



ネイチャーSBTsの設定プロセスを理解する

経営陣との対話に向けて準備し、賛同を得て必要なリソースを割り当てる



技術スタッフまたは外部コンサルタントに目標設定プロセスの詳細を開始してもらうよう概要を説明する

本マニュアルをお読みいただいた後、適切な方法と目標設定・認定の要件の詳細を包括的に理解するためには、技術ガイダンスセクションをご参照ください。

SBTネットワーク およびネイチャーSBTsに関するより一般的な入門情報については、ネイチャーSBTs(自然に関する科学に基づく目標)とは何か、なぜそれが重要なのか、そしてそれが他の持続可能性イニシアチブとどのように関連しているのかなど、SBTネットワークのWebサイトでリソースを入手できます。

企業マニュアル：ネイチャーSBTs

## 読者への免責事項

ライセンス:本企業向けマニュアルは、クリエイティブ・コモンズ表示-非営利 4.0 国際ライセンス (CC BY-NC) に従って提供されており、全文は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/> でご覧いただけます。

責任:SBTNはロックフェラー・フィランソロピー・アドバイザーの支援プロジェクトのもと、本ガイダンス文書を「現状のまま」提供します。これは、所有権、非侵害性、商品性、特定目的への適合性などの黙示的な保証を含め、いかなる種類の保証も提供しないことを意味します。SBTNは、ガイダンス文書またはそのコンテンツの誤用、紛失、改変、または利用不能に関して一切の責任を負いません。SBTNは、ガイダンス文書が利用者の要件を満たすこと、ガイダンス文書が中断されないこと、タイムリーであること、安全であること、またはエラーが発生しないこと、情報が利用者の要件に適合することを保証するものではありません。本ガイドラインは、正確、完全、信頼できる、または正確であること、欠陥やエラーが修正されること、あるいは本ガイドラインにウイルスやその他の有害な要素が含まれていないことを保証するものではありません。SBTNは、ガイダンス文書がすべての利用者にとって適切であること、またはすべての時間や場所で利用可能であることを表明するものではありません。ガイダンス文書の使用が違法である地域からのアクセスは禁止されています。

# ベストプラクティス: ネイチャーSBTs設定の準備



## ベストプラクティス： ネイチャーSBTs 設定の準備

適切な場所・タイミングで適切な行動をとることで、ネイチャーSBTsを戦略に取り入れる企業は、自然損失の流れの変化に貢献できるでしょう。貴社はより健康で、より強靱で、より公平な世界に貢献すると同時に、新たなビジネスチャンスを開拓し、組織の長期的な存続を確保することになります。

自然に関する科学に基づいた目標を設定する準備として、企業はここで概説する主要な活動に取り組み始めることを推奨します。これらの活動は、これまでのSBTNおよび数々のパートナー主導の企業パイロットから得られた洞察に基づいています。ネイチャーSBTsを設定した企業からのさらなる洞察は、SBTNのWebサイトの[ケーススタディ](#)セクションでご覧いただけます。

## ベストプラクティス：

### 社内コラボレーション：



- ・ 明確な定義と野心を持った自然戦略を策定する。
- ・ リーダー層からのサポート/支援を得る。
- ・ 社内ステークホルダーと調整を行う。

### リソース：



- ・ 利用可能なデータとツールを理解する。
- ・ 専任の技術チームを編成する。

### プロジェクト管理：



- ・ 専用の予算を用意する。
- ・ 今後のステップの現実的なタイムラインを設定する。
- ・ 地域ステークホルダーと協働する時間をとる。

# 社内コラボレーション



## 明確な定義と野心を持った自然戦略を策定する

自然に対する行動がビジネス価値を生み出すことができる理由(例:送粉サービス減少による作物の損失を回避)について強力な根拠を確立します。組織の自然に対する野心と気候戦略を一致させることで、重要性を高め、明確な価値観に基づくストーリーを構築し、相互に関連するリスクに対処します。自然戦略の策定には、Business for Natureが発行した[Nature Strategy Handbook](#)をご利用ください。



## リーダー層からのサポートを得る

成功を確実にするためには、社内リーダー層の賛同とサポート/支援を得ることが重要です。目標設定戦略をビジネス戦略と統合することで、資本フローの改善やリソースの効率化、価値提案の強化、評判資本などを通じて、さらなる価値を創出できることを伝えられます。科学、ツール、ベストプラクティスが進歩するにつれて、目標設定に柔軟に取り組む意欲があることを確認しましょう。



## 社内ステークホルダーと調整を行う

社内ステークホルダー間で目標設定に必要なプロセスにおける賛同、明確なコミュニケーション、合意性を確保しましょう。これらには、持続可能性に加えて、調達、財務、運用、事業開発、研究開発、コンプライアンスに携わるチームも巻き込むことができるでしょう。例えば上流データに関しては、調達部門との効果的な調整が不可欠です。特にバリューチェーンの下流に位置する大企業に当てはまり、データの準備と収集の作業は大きな取り組みとなる可能性があります。また、自然に関する目標設定は地域に特化しており、関連するステークホルダーとの関与が必要です。そのために貴社の地域事務所との関係を構築する必要があることに留意してください。

# リソース



## 利用可能なデータとツールを把握する

社内のサステナビリティ専門知識に加え、データとプロジェクト管理能力が必要となります。できれば、組織はすべての材料拠点において上流の可視性とサプライヤーとの強力な関係を確立することが望ましいです。まず、SBTNの High-Impact Commodity List (HICL) を確認することが有用でしょう。組織には、例えば、以前のマテリアリティスクリーニング、SBTiによる気候目標の設定、自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) によるリスク評価、または CDP による情報開示などから、直接的な業務に関する何らかの既存の自然「ベースライン」がすでにある可能性があります。



## 専任の技術チームを編成する

パイロットに参加した企業が目標を設定した際に、ライフサイクルアセスメントやフットプリントに関する専門知識、空間解析の能力、環境データの深い理解などの専門的なスキルセットが重要であることがわかりました。ほとんどのパイロット企業は、プロセス全体を通じてサポート/支援を外部のコンサルタントに依存しています（SBTNの[専門アドバイザーのリスト](#)を参照）。

# プロジェクト管理



## 専用の予算を設定する

貴社チームは本予算を利用して、データ収集、透明性の向上、優先順位の分析、専門家の採用、ステークホルダーのエンゲージメント、目標達成のためのソリューションの実装、進捗状況を追跡するための監視手法など、短期的な優先事項に向けて前進していきます。ネイチャーSBTsの必須ツールは無料でアクセスできますが、追加の推奨ツールには費用がかかる場合があることにご留意ください。



## 次のステップの現実的なタイムラインを設定する

SBTNは、現段階では、セクター、ビジネスモデル、バリューチェーンの複雑さによるさまざまな変数、および企業間の内部プロセスの極端な多様性と各企業が利用できるリソースを考慮すると、各ステップにかかる時間を正確に見積もることはできません。今後は、より正確な計画の策定に役立つ、より代表的なデータを提供することを目指しています。一般的に、科学に基づく目標をゼロから設定し始める企業が原材料を調達している上流のサプライチェーンのデータを収集するには、最大1年かかる場合があります。



## 地域のステークホルダーと協働するために時間を割く

目標の策定、実施、進捗状況の追跡を行う際には、目標が公平であることを確認するためにも、必要に応じて地域のステークホルダーと協働してください。詳細についてはステークホルダーエンゲージメントガイダンスのセクションをご参照ください。

セクター、ビジネスモデル、バリューチェーンの複雑さ、社内プロセス、データの可用性、技術力、その他多くの要因に応じて、各企業が科学に基づく目標を設定する方法は異なるでしょう。しかし、最終目標は常に同じです。企業のレジリエンスと長期的な持続可能性を高めながら、自然を保護および回復するという野心的な目標を設定し、達成することです。



**組織が自然に関する科学に基づく目標を設定するための準備に役立つ追加資料は、公式ウェブサイトの「開始方法(How to get started)」セクションにあります。**





# SBTネットワーク 資料の紹介

# SBTネットワーク資料 の紹介

次ページの図は、ネイチャーSBTsを設定し、達成するための道程で使用する主なリソースの概要を示しています。ネイチャーSBTsガイダンスには、淡水、土地、気候（SBTi 経由）に関する方法が含まれており、海洋に関する手法は開発中です。生物多様性はこれらすべての領域にわたって統合されています。

本ガイダンスは 5 段階のアプローチにまとめられており、自然への影響を理解し、最初に取り組むべき影響を優先順位付けし、さまざまな問題に対して科学に基づく目標を設定し、目標を達成するための行動を決定し、プロセス全体を通じて測定、報告、認定（MRV）プロセスを実装するためのガイドとなります。これらの方法には特定の認定要件が関連しており、今後のクレームガイダンスでは、目標についてどのように伝えるかについての推奨ガイダンスが提供されます。ステークホルダーのエンゲージメントと生物多様性の適用範囲に関する補足的なガイダンスとリソースも利用可能で、設定企業の取り組みを支援します。

## 企業マニュアルの図解

### 自然の領域:



淡水



土地



海洋



気候



### 生物多様性:

### 自然への圧力:



土地利用と  
土地利用の変化



淡水生態系の  
利用と変化



海洋生態系の  
利用と変化



その他の(生物)  
資源の利用



土壌汚染



水質汚染



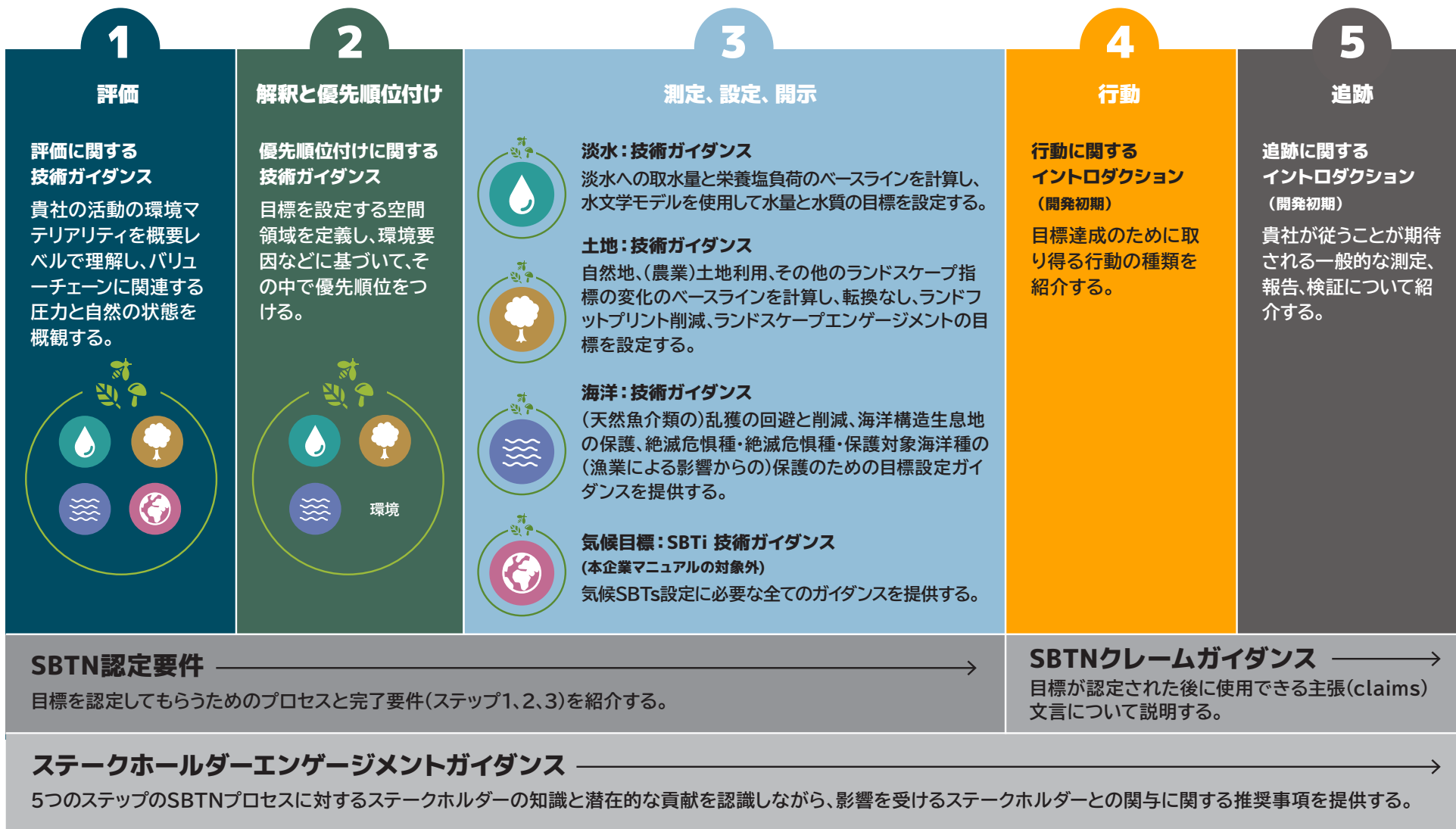
水利用



温室効果ガス  
(GHG)の排出

# 企業マニュアルコンテンツマップ

下記は企業マニュアルで取り上げられている内容のスナップショットです。5つのステップを通じてネイチャーSBTs(自然に関する科学に基づく目標)を設定・達成するために使用される主要資料を要約しています。私たちのガイダンスは、淡水、土地、海洋、気候という4つの自然の領域をカバーしており、生物多様性はすべての領域をつなぐ要素です。







## ネイチャーSBTsの手法 が生物多様性をどのよ うに直接的に支援でき るのか

生物多様性は、非生物的要素(淡水系や海洋系の水、土壌、大気など)とともに、自然の中核となる構成要素です。それは、遺伝子、種、生態系、そして人間に自然がもたらすもの (NCP: nature's contributions to people) など、それぞれが他のものと複雑に依存している複数のレンズを通して見るすることができます。



**ネイチャーSBTsガイドンスは現時点で遺伝的多様性についてはカバーしていませんが、種、生態系、および NCP への脅威については対処しています。生物多様性のこれらの要素は、SBTネットワーク のすべてのステップに組み込まれています。**

・マテリアリティスクリーニング(ステップ 1a)では生物資源の利用と生態系の変換が使用され、バリューチェーン評価(ステップ 1b)ではいくつかの生物多様性関連指標の推定が必要になります。これらの指標には、(陸域)生態系の転換や絶滅危惧種および取引規制種の調達圧力のほか、種の絶滅リスク、種の固有性、生態系の健全性と状態、生態系の連結性、NCP、生物多様性の重要性が明確に示された地域などの自然の状態の指標が含まれます。ステップ 2bでは、これらの生物多様性指標を使用して、ステップ 2c の優先順位付けプロセスの基礎となる場所の優先順位を決定します。

・ステップ 3 の淡水手法では生物多様性指標は明示的にカバーされているわけではありませんが、関連セクションで説明されている通り、生物多様性は、水量と水質の両方の目標の野心レベルを通知する閾値内に組み込まれています。つまり、量的目標は環境の流れの維持を確実にし、質的目標は富栄養化の回避を確実にすることで、どちらも生物多様性に直接結びついています。

・ステップ 3 の土地の方法論において、「自然生態系の転換なし」という目標は、自然地の定義において生態系の健全性と状態を考慮し、目標年を決定する際に NCP の実施や絶滅の危機に瀕した生態系と種の保護など、さまざまな地域の重要性を参照しています。土地フットプリント削減目標は、自然生息地を回復するために利用可能な土地を増やすことで、生物多様性に貢献します。ランドスケープエンゲージメントの目標により、企業は生態系の健全性など、地域の状況に最も関連性の高い生物多様性指標を柔軟に提案できるようになります。



**SBTネットワークは、現在の生物多様性の対象範囲を拡大するためのさらなるガイダンスを開発しています。今後公表予定の資料では、一連の方法論における主要なギャップと、これらのギャップを埋めるための最善の機会を評価する予定です。たとえば：**

- ・「ステップ 1: 分析・評価」および「ステップ 2: 解釈と優先順位付けの方法」を変更することで、バリューチェーン評価やランキング付けおよび優先順位付けのプロセスで使用される生物多様性指標の選択と範囲が改善されます。生物多様性は、ランドスケープエンゲージメント目標のためのランドスケープ選択や淡水目標設定をサポートするためのモデル選択を決定する上で、より重要な役割を果たすこととなります。
- ・ステップ 3 の土地に関する方法論 (V2) では、目標の野心レベルを通知する閾値に生物多様性指標が組み込まれます (淡水手法が現在行っている方法と同様)。潜在的な指標には、自然植生被覆率や土壌状態に関連する指標なども含まれます。

- ・ステップ 3 海洋の方法論は、直接的な資源抽出の圧力カテゴリを最初にカバーする方法論となります。本手法は、土地および淡水領域に適用するように拡張される可能性があります。
- ・ランドスケープエンゲージメントの目標を反映した目標が、淡水領域と海洋領域の両方ですぐに策定される可能性があります。SBTネットワークは中長期的には、淡水と陸上の生態系の断片化と連結性、特に淡水と海洋の領域における外来種などの問題を調査する予定です。

現在利用可能で開発中の ネイチャーSBTs 方法論は、主に回避および削減措置に関連する圧力ベースの目標に重点を置いています。種の絶滅リスクや生態系の健全性と状態を含む生物多様性の状態をベースとする目標は、現在調査が進められている分野であり、将来開発される可能性があります。



1

# ステップ1:

自然への影響を分析・評価する





## ステップ1を完了すると 下記を達成できます：

- ✓ 企業の自然に対する圧力のうち、目標を設定する上で重要なものはどれかを特定
- ✓ 最初に一部の事業部門に目標設定の取り組みを集中させるか、企業全体から始めるかを決定
- ✓ バリューチェーン全体にわたるこれらの圧力と自然の状態を定量化するためにデータをまとめる

# 自然に与える影響評価を行う必要があるのか？

企業のすべての**経済活動**は、土地の改変、資源の抽出、環境への有害な排出物の放出などによって自然に影響を与えています。多くの場合、サステナビリティ・サイエンスでは経済活動が自然に与える影響を、**環境圧力 (pressure)**と呼んでいます。<sup>1</sup>自然への影響という点では、貴社が与える圧力のすべてが等しく甚大であるというわけではありません。環境に対する社会的観点から見て重要な圧力、つまり、現在または潜在的に人や自然に重大な(マテリアルな)影響を与えている圧力に、目標設定の取り組みを集中させることを推奨します。

ステップ 1 の技術ガイダンスに従うことで、2 つの目的が達成可能です。一つ目は、どの**経済活動**とそれがもたらす**環境への圧力**が、自然に対して科学に基づく目標を設定する価値があるほど重要であるかを広く理解します。二つ目として、これらの活動に関連する**操業データ**と**環境データ**を収集します。本データは、後続の手順で説明する方法を適用するために必須となります(required)。これにより、**データ収集**と**目標設定の取り組み**を自然に対して最重要である問題に集中させることが可能です。同時に、このような包括的な環境のデータ概要は、自然に関する科学に基づく目標の枠を超え、**持続可能性の取り組み**や**責任**をサポートする上でも役立ちます。

<sup>1</sup> SBTネットワークはこの用語を使用していますが、他のイニシアチブやフレームワークでは、直接的な推進要因(direct drivers)やインパクトの推進要因(impact drivers)(それぞれ、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)と自然資本プロトコルで使用されるもの)などの同等の用語が使用される場合があります。

/// 気候と並行した自然への影響の統合評価のおかげで、**温室効果ガス (GHG) 排出量が最小限であるにもかかわらず、自然に重大なインパクトを及ぼす原材料を特定することができました。** ///

ネイチャーSBTs 2024 パイロット企業

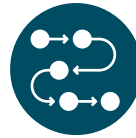
# 自社が自然に与えている圧力をどのように評価すればいいのか？

ステップ 1 は 2 つの手順に分かれています。



## ステップ1A

ステップ 1a の**マテリアリティスクリーニング**は、**8 つの圧力カテゴリ**において経済活動がマテリアルであるかどうかを特定するための、迅速かつ大まかなプロセスです。マテリアリティのスクリーニング ツールを使用することで、上流の重要な活動に関する洞察も得られます。さらには、自動化された結果を自社固有のデータで絞り込むことができます。マテリアリティスクリーニングでは、直接操業と上流バリューチェーンにおける企業の直接的な活動を対象とする必要があります(must)。



## ステップ1B

ステップ 1b の**バリューチェーン評価**は、より徹底的なプロセスですが、マテリアルスクリーニングでマテリアルであると判断された活動と圧力に限定されます。本評価では、活動とバリューチェーンをマッピングし、その結果生じる自然への圧力を定量化します。また、事業および調達場所の**自然の状態**がどの程度健全であるか、または脆弱であるかを判断することになります。これにはバリューチェーン全体にわたる高い透明性が必要ですが、完全なトレーサビリティはすぐに必須となるというわけではありません(not required)。この評価を企業全体に対して完了させるか、最初に一部の**事業部門**に焦点を当てるかを選択できます。

SBTNのステップ 1 ツールボックスでは、オープンソース、オープンアクセスを含む多数のツールとリソースが推奨されています。これらのいずれか、またはSBTNのデータ品質基準を満たすその他のツールを使用いただくと、スクリーニングと評価が完了となります。



## ステップ 1A: マテリアリティスクリーニング

作業  
**1**

### 組織のバウンダリを定義する

貴社業務の範囲内にあり、責任の下にある経済活動の全リストを提供する。

作業  
**2**

### 直接業務と上流活動を特定する

標準化された経済分類システムを利用してバリューチェーン活動を分類する。

作業  
**3**

### 活動内で影響の大きいコモディティを特定する

バリューチェーン内に、自然にとってより大きなリスクを伴うコモディティが存在するかどうかを報告する。

作業  
**4**

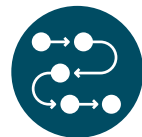
### マテリアリティスクリーニング

ネイチャーSBTsのマテリアリティスクリーニングツールを使用すれば、ネイチャーSBTsの8つの環境圧力カテゴリのうちどれが自社の活動にとって重要であるかを素早く判断が可能である

作業  
**5**

### 結果を精査して企業の活動を反映させる

任意で独自のデータを使用し、特定のビジネス慣行をより適切に表す方法でスクリーニング結果を絞り込むことが可能である。



## ステップ 1B: バリューチェーン評価

作業  
**6**

### 目標設定を行う事業部門の選択

任意で、最初の目標設定を一部の事業部門のみに集中させ、残りは後回しにすることも可能である。複雑な操業の場合に推奨される。

作業  
**7**

### バリューチェーンの活動と場所をマッピング

直接操業の活動について説明し、その場所を特定する。調達したすべての生産投入量を報告し、調達場所を特定する。

作業  
**8**

### 貴社活動による環境圧力を定量化する

土地利用と土地利用の変化、水利用、土地汚染、水質汚染に対する価値活動の圧力を測定または推定する。

作業  
**9**

### 各地理的場所の自然の状態を分析・評価する

生態系の範囲、地表水の流れ、土壌と淡水の栄養塩汚染レベル、生態系レベルと種レベルの生物多様性などの指標について、バリューチェーンの各場所の環境条件に関する情報を収集する。



本インフォグラフィックは、ステップ1a:マテリアリティスクリーニングの実施に必要な主なアクションについて説明しています。これには、土地利用や土地利用変化、水利用、土壌汚染物質、水質汚染物質などの圧力カテゴリが貴社の経済活動にとってマテリアルであるかどうかを検討する初期スクリーニングが含まれます。



## ステップ 1A: マテリアリティスクリーニング

**作業 1-2** 組織のバウンダリを定義し、  
経済活動を特定する



直接操業



バリューチェーン上流

**作業 3** 活動において影響の大きい  
コモディティを特定する



**作業 4-5** マテリアリティのスクリーニング  
ツールを使用して、8つの  
圧力カテゴリに関する各活動  
の重要性をスクリーニングする



**X** 非マテリアル的な圧力を表す



# ステップ1A: 自社活動のマテリアリティをどのように判断すればよいか?

作業

## 1 組織のバウンダリを定義する

最初の作業は、**組織のバウンダリ(境界)**を定義することです。つまり評価を実施する年度において、貴社の所有または支配下に直接あり、言い換えれば貴社の責任の下にある事業運営のリストを作成することです。組織のバウンダリを定義するには、財務管理、操業管理、株主資本という3つのアプローチのいずれかを使用可能です。

財務管理アプローチでは、指示できる業務(利益の大部分を受け取る権利がある、または財務上のリスクと報酬を保持するなど)に関連するインパクトを考慮します。操業管理アプローチでは、業務方針を実施できる業務を考慮します。株式資本管理アプローチでは、業務で保有する株式または経済的利益の割合に等しいインパクトの割合を考慮します。

以前に SBTi で気候目標を設定したことがある場合、または温室効果ガス プロトコル (GHGプロトコル) に準拠したその他の持続可能性イニシアチブの組織バウンダリを定義したことがある場合は、SBTNでも同じアプローチを使用することをお勧めします。組織のバウンダリの定義方法については、[GHGプロトコルのガイダンス](#)をご参照ください。

### 本作業で得られるもの:

- 組織のバウンダリで考慮した活動のリスト。

### 目標検証の準備:

- 組織のバウンダリを定義するために選択したアプローチを正当化し、活動を説明する裏付けとなる文書(組織図や年次報告書など)を提供する必要があります。

作業2では、国際標準産業分類 (ISIC) 体系で定義されたグループレベルコードによって分類された、貴組織のバウンダリ内に属するすべての経済活動をリストアップします。この一覧表には、各調査地点で何が起こっているかの具体的な説明ではなく、一般的な(つまり、カテゴリ的な)情報が必要です。

これによりネイチャーSBTsマテリアリティスクリーニングツールを使用して、(予想される) 上流活動のリストを自動的に取得できます。本リストは、セクター間の既知の経済的投入と産出の関係に基づいて作成されており、各項目が企業の特定のケースに当てはまるかどうかを慎重に確認することを推奨します。

ネイチャーSBTs方法論の最初のリリースでは、**下流**の活動、つまり商品やサービスの販売後に発生する経済活動やプロセス(流通、消費、廃棄など)は対象になりません。バリューチェーンのこれらの部分に対処するために方法を解釈して適応させることは可能ですが、これは現時点ではネイチャーSBTsの方法論や目標の適用範囲外です。



#### 今後の展望:

- ステップ 1b では、バリューチェーン内のすべてのマテリアル的な圧力と活動に関する操業データと空間データ(商品の量や生産場所など)が必要になります。ここでは、Tier 1 サプライヤー以外の調達先(の一部)を追跡することが必要になります。この情報はステップ 1a では使用されないものの、データ収集プロセスで有用な場合は、情報収集を本時点で開始することも可能です。



#### 本作業で得られるもの:

- 直接操業およびサプライヤー業務の規格化された経済活動のリスト。

## 活動内で影響の大きいコモディティを特定する

作業3では、SBTNの高インパクトコモディティリスト (HICL) を参照します。これは、EUの新しい森林破壊防止規則 (EUDR) に記載されているものを含む、生物多様性の損失の主な要因として知られているコモディティをまとめたものです。後の作業で、これらのコモディティのデータ収集作業に優先順位を付けます。

これらのコモディティのどれが操業に使用されているかをご確認ください。例えば、直接操業の一環として一次生産に参加することであれば、加工、製造、流通、その他のバリューチェーン活動のために調達する場合もあります。また、バリューチェーン内の動物飼料に大豆やパーム油などのコモディティが含まれているかどうかを示す必要があります (must)。

バリューチェーン内の高インパクトコモディティ (HIC) を報告し、その商品をどのような形態 (原材料または加工品など) で生産または入手したかを示さなければなりません (must)。HICL には、さまざまな加工段階にあるコモディティが少数含まれています。たとえば、牛と (牛由来の) 皮革、鉄と鋼鉄の両方が存在するなどが挙げられます。貴組織の活動に最も関連のある形態を扱ってください。

直接操業 (一次生産を行っている場合) および上流 (コモディティを調達している場合) における HIC のリストを記録してください。

### 👉 本作業で得られるもの:

- 直接操業 (一次生産) および上流 (調達) における影響の大きいコモディティのリスト。

**作業4**では、ネイチャーSBTsで必須とされている(required) 8 つの圧力カテゴリ（土地利用と土地利用の変化、淡水生態系の利用と利用の変化、海洋生態系の利用と利用の変化、水の利用、その他の資源の利用、温室効果ガスの排出、淡水汚染物質、土壌汚染物質）に基づいて、各経済活動のマテリアリティをスクリーニングします。侵入種や大気汚染物質などの追加の圧力カテゴリを含めることもできますが、これは必須ではありません(not required)。

**マテリアリティのスクリーニングツール**を利用して、データベースから標準化された経済活動を選択すると、ツールは各圧力カテゴリに対するマテリアリティが直接示されます。

また、HICL を参照して、（活動レベルで重要と見なされるカテゴリに加えて）追加の圧力カテゴリが HIC にとって重要と見なされるかどうかを判断していただく必要があります(must)。



#### 注意点:

- このスクリーニングは、企業の特定の業務ではなく、世界規模のセクター平均データに基づいて、経済活動の予想される重要性を反映します。本スクリーニングを行うことで明確な評価というよりは参考となる概要を得られます。



#### 本作業で得られるもの:

- 各圧力カテゴリに対する各経済活動(および HIC)の予想されるマテリアリティ(はい/いいえ)を示す表。

## 5 結果を精査して企業の活動を反映させる

**作業5**では、組織または運用コンテキストに固有のデータを使用して、バリューチェーン内の経済活動が、異なる慣行やプロセス、製品の選択、または地域文脈により、マテリアリティのスクリーニング ツールによって示された世界平均の結果と大幅に異なることを正当化することが可能です。

言い換えれば、スクリーニングツールが示しているにもかかわらず、特定のケースでは、ある活動はマテリアルではないと貴社が主張するかもしれません。正反対の状況、つまり、スクリーニングツールでは活動が一般的に重要ではないと示されているが、特定のケースでは重要であるとみなされるという状況も考えられます。これは、マテリアリティスクリーニングの結果が、ステップ 1b および方法のその後のすべてのステップでのデータ収集作業適用範囲に直接影響するため重要です。

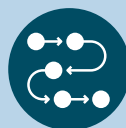
スクリーニングは活動全体のレベルで行われるため、活動レベルですべての圧力カテゴリにわたる変更を正当化するには、その活動分類に該当する操作全体がグローバル平均と異なる必要がある(**must**)ことに注意してください。認定のための目標提出の一環として、改善点を裏付けるすべての情報を提示する必要があります(**must**)。

稀ではありますが、結果から、活動の 1つが 8つの圧力カテゴリのいずれにも該当しないことが判明した場合は、その活動をプロセス内の後続の全作業から除外することが可能です。

### 本作業で得られるもの:

- 各圧力カテゴリに対する各経済活動の精緻化されたマテリアリティの結果（はい/いいえ）を示す表。
- スクリーニングの結果から変更する場合には、その根拠となる情報。

こちらのインフォグラフィックでは、**ステップ 1b: バリューチェーン評価**を実施するために実行する主なアクションについて説明しています。本ステップでは、業務と調達エリアをマッピングして、活動による環境への圧力と所在地の自然の状態の概要を把握します。



## ステップ 1B: バリューチェーン評価

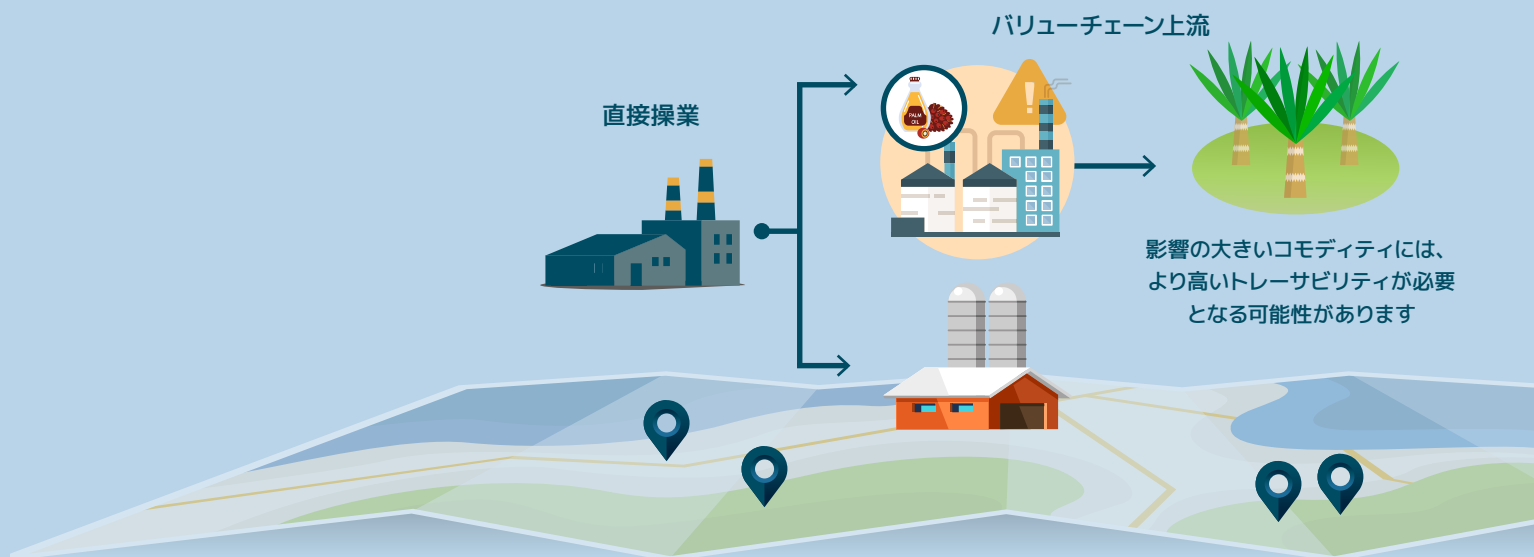
作業  
**6**

マテリアルな圧力に基づいて目標設定の対象となる事業部門を選択



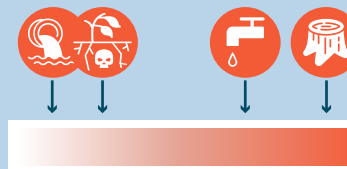
作業  
**7**

バリューチェーンの活動と場所をマッピング



作業  
**8-9**

活動による環境への圧力と、バリューチェーンの各場所における自然の状態を分析・評価する



# ステップ1B: 自社活動の圧力と周囲の環境の状態 (SoE) をどのように評価すれば良いか?

作業

6

## 目標設定を行う事業部門の選択

作業 6 では、**ビジネスユニットアプローチ (BUA)** を使用して、ビジネス内の個別の部分を選択し、残りの目標設定プロセス (手順 1b、2、3) を企業全体ではなくそれらの部分に重点的に当てることが可能です。

BUA は、バリューチェーン データ不足などにより、ビジネスのすべての部門が同じように目標を設定する準備ができていない可能性がある場合に、目標設定を容易にするために、大規模な多国籍企業データを念頭に置いて設計されました。加えて、非常に分散化された意思決定構造を持つ会社の子会社や部門にも適しており、組織のこれらの分散されたセグメントのリーダーが、親会社からの完全な賛同を得る前に科学に基づいた目標を設定したいといった場合にも適しています。

目標設定を可能にするために、十分な操業上の自主性および/または経営幹部からのサポートのもと、事業部門を特定して選択する必要があります (must)。これらの事業部門は ネイチャーSBTs専用 に定義することはできません。代わりに、個別の運用予算、損益計算書、財務報告など、組織内の既存の構造である必要があります (must)。

選択された事業部門は、理想的には、それらの部門の経済活動のマテリアリティスクリーニングの結果によって示されるように、他の部門と比較して自然に対して高いインパクトを持つ必要があります。

企業マニュアル：ネイチャーSBTs

データの準備状況や行動能力によって選択を正当化することもできます。選択が完了した後は、それらの事業部門に関連する作業5 の出力を抽出し、プロセスの次の作業に進みます。留意点として、目標の範囲と対象範囲について公開された透明性を提供するためにも、ビジネス全体の目標を設定するまでは、目標設定の主張は制限されることに注意してください。

### 📁 本作業で得られるもの:

- 選択された事業部門のリスト、その選択の根拠、およびそれを正当化する証拠。
- 選択された事業部門の経済活動、そのマテリアリティの結果(各圧力カテゴリーのはい/いいえ)、および企業全体に対する相対的な規模の表。

### 📝 目標認定の準備を行う:

- 選択した事業部門に目標を設定することの実現可能性と、それらがすでに会社で機能している部分であることを正当化し、除外された事業部門と比較した規模を示し、それぞれのマテリアリティスクリーニング結果のマップを提供する必要があります。

1

2

3



## 7 バリューチェーンの活動と場所をマッピング

作業7では、バリューチェーン活動のマップを作成します。これには、活動の詳細とロケーション、上流セグメントについては調達した商品の量と、それらが生産および加工される場所を含めます。

すべての直接操業活動、つまり組織のバウンダリ内のすべての業務活動を示します。これには、自社の敷地内で行われる活動だけでなく、定期的な敷地外活動(特に漁業、採掘、建設、輸送などの分野)も含まれます。これらの活動が行われている場所をすべて、国以下の地域データ、できれば最も詳細なスケールで特定してください。

上流工程では、生産投入物にのみ集中すれば問題ありません。具体的には、加工、変換、製品への統合、または再販するために購入する商品を指します。これには、廃棄物や副産物になる可能性のある原材料、包装、入力物のほか、肥料や農薬(農業用)、爆発物や溶剤(抽出用)などの入力物が含まれます。資本財、サービス、生産投入物として使用されないその他の商品など、その他のすべての調達は評価適用範囲外です。企業の調達および在庫データを使用して、生産投入物のリストを作成します。これらの商品を、貴社のセクターのマテリアリティスクリーニングツール(作業2)によって提供される上流のバリューチェーン活動と照合し、結果を適宜調整します。調達した製品に至るまでの最新の生産段階または変換段階を担当するバリューチェーン活動を使用することが推奨されます。

通常の年における各生産投入物に関連する合計量(トン数または同等の測定単位で測定)を登録してください。次に、HICLを参照して、貴社調達におけるHIC由来部品/要素の量を推定し、コモディティごとに分解して(合計の)総量を示してください。

次に、評価の焦点となる特定のバリューチェーン段階の場所を特定していただきます。

- HIC由来の生産投入物[の構成要素]の場合、関連するバリューチェーン段階は、コモディティの上流ライフサイクルにおける各マテリアルな圧力カテゴリに対して最も影響力のある生産段階または変換段階です。

一部のHICでは、圧力のカテゴリに応じて関連するバリューチェーンの段階が異なる場合があります。たとえば、皮革の場合、加工は水質汚染に関係する可能性があります。一次生産(牛皮の生産)は土地利用と土地利用の変化に関係する可能性があります。一般的に、または情報が不足している場合は、主要な生産段階が最も影響力の大きい段階であると仮定することが推奨されます。

- 生産投入物のその他のすべての要素については、バリューチェーンのどの段階を評価することも可能であり、これは最も影響の大きい段階(HICの場合など)でも、最新の処理段階や変換段階など、他の段階であってもかまいません。

次の作業に進む前に、すべての生産投入物(HICを含む)のコンポーネントの少なくとも67%(量で)と、すべてのEUDRリスト上のコモディティを含むHICコンポーネントの(合計)総量の90%(量)について、関連するバリューチェーンの場所を特定していることを確認してください。

国際自然保護連合(IUCN)の絶滅危惧種のレッドリスト、およびワシントン条約(CITES)の国際取引規制の対象となる種のリストを参照し、これらの種が事業活動に存在するかどうかを確認してください。

たとえば、漁業や林業などの分野での直接的な業務の一環として、それらの採取に関与する場合があります。活動の投入物として、原材料または加工品の形で調達する場合は、上流のバリューチェーンでそれらを見つけることもできます。これは食品、木材、紙、化学薬品、医薬品などの業界で発生する可能性があります。運輸、物流、小売業などのバリューチェーンに参加するあらゆる業界で生じる可能性があります。

事業活動で存在するIUCNまたはCITESのリストに記載されている種のリストを記録してください。



### 今後の見通し:

- おおよその位置または推定場所でステップ1と2を完了できますが、ステップ3に進むには、より正確な場所データが必要になる場合があります。貴社の場所データは、圧力と自然の状態の評価(ステップ1b、作業8および9)、目標バウンダリの設定(ステップ2a)、ランキングと優先順位付け(ステップ2bおよび2c)に影響するため、最初から可能な限り最高品質のデータを使用することが重要です。常に入手可能な範囲で最も正確な場所レベルを使用し、バリューチェーン全体のトレーサビリティを向上させ、ステップ3のガイダンスに従って目標を設定する能力を向上させることが推奨されます(should)。



### 本作業で得られるもの:

- 直接操業活動とその詳細および場所の表。生産投入物の調達量とその詳細、関連コンポーネント(HICコンテンツなど)の内訳、評価の場所を含む表。
- バリューチェーン(直接操業および上流)に存在するIUCNおよびCITESリストの種のリスト。

1



2

3

## 貴社活動による環境圧力を定量化する

作業8では、直接操業の活動と調達における生産投入物に関連する圧力を定量化します。つまり、バリューチェーンの各段階で、どれだけの土地や水が使用されたか、またはどれだけの汚染物質が排出されたかを推定することになります。

次の指標を使用して、ステップ 1a、作業5でマテリアルと示された圧力を定量化する必要があります。

マテリアルな圧力カテゴリー	圧力指標
土地利用と土地利用の変化	各ロケーションに下記2つとも必須(required): <ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用(土地管理の面積と概要)</li> <li>土地利用の変化(生態系と土地利用タイプ別、2020年もしくはそれ以前以降)</li> </ul>
水利用	各場所で下記いずれか一つが必須(required)で、場所間での組み合わせも可能: <ul style="list-style-type: none"> <li>取水量(水源別)</li> <li>水消費量(取水時の時間、場所、水質と一致する形で水が戻される場合、水源別)</li> </ul>
土壌汚染物質	各場所に必要なもの: <ul style="list-style-type: none"> <li>(肥料の施用による)土壌への栄養供給</li> </ul> 場所別のオプション: <ul style="list-style-type: none"> <li>固形廃棄物(例:有機廃棄物)を介した土壌への栄養負荷</li> <li>土壌に対するその他の汚染負荷(例:酸性化や有毒化学物質)</li> </ul>
水質汚染物質	各場所に両方必要: <ul style="list-style-type: none"> <li>土壌を介した淡水への栄養塩負荷(窒素とリンを分離することが望ましい)</li> <li>廃水による淡水への栄養塩負荷(理想的には窒素とリンを分離)</li> </ul>
GHG(温室効果ガス)排出量	SBTiの目標設定ガイダンスに従っていただくことが必須となります(required)



圧力を定量化するアプローチには、測定と(モデルベースの)推定の 2 種類があります。

- ・ **測定**とは、センサー、水位計、地図、衛星データなどから自分で値を生成することを意味します。データと測定能力がある場合は、常に圧力を測定することが推奨されます。これにより、ステップ 3 と 4 での目標設定と実装が容易になります。
- ・ ライフサイクル分析ツールや公開されている統計データなどの既存のデータベースやツールを使用して値を**推定**することもできます。これらのモデルは、一般的に生産量などの入力データに依存します。活動ボリュームが大きいため、調達データが必要になります。作業 8 を完了するために、推定値を常に使用できますが、これによりステップ 3 と 4 を完了する能力が制限されます。場合によっては、プロセスを続行するために測定値を使用して圧力の再計算が推奨される場合があることに注意してください。

特定の圧力指標に関して、ある活動のボリュームに関連する圧力がゼロまたはほぼゼロであっても、これらの値を報告する必要があります (**must**)。活動に適したツール、例えば、貴社の業界や地域に特化したツールを使用することが推奨されます。ネイチャーSBTsステップ 1のツールボックスには、本評価で使用できる推奨ツールが多数含まれています。

製品のライフサイクル全体 (つまり、ゆりかごから墓場まで) の集約された圧力データを提供する推定ツールを使用する場合は、一部だけを割り当てるのではなく (つまり、圧力を過大評価する必要がある)、評価しているバリューチェーンの段階にこれらの圧力すべてを帰属させることが必須(**required**)であることに注意してください。

各圧力カテゴリー(それぞれ個別に計算)について、以下の圧力指標を定量化すると作業 8 が完了します。

- ・ 直接操業の100%
- ・ HIC由来のコンテンツを含むすべての生産投入物の少なくとも 67% (量ベース)。
- ・ HIC の少なくとも 90% (数量ベース)、これには EUDR リスト上にあるコモディティの 100% が含まれます。

#### 本作業で得られるもの:

- ・ 全活動の圧力指標が追加された作業 7 の表。

## 各地理的場所の自然の状態を分析・評価する

最後は、作業7と8に含まれる各場所の自然の状態に関する情報を使用して、環境圧力の推定値を補完します。

自然の状態指標は、ある場所がどれだけ健全であるか、または脆弱であるかを示し、特定の圧力がその場所に対してどれだけ深刻であるかを理解するのに役立ちます。ネイチャーSBTsの手法では、次の2種類の自然状態指標を使用します。

- ・ **圧力に敏感な自然の状態 (SoNP)** 指標は、圧力によって直接影響を受ける（通常は非生物的）環境条件を表す指標です。特定の場所で評価しているバリューチェーン活動のマテリアルな圧力カテゴリを反映するものを使用してください。
- ・ **生物多様性自然状態 (SoNB)** 指標は、種と生態系のレベルでの生物多様性の状態、そして自然がもたらすもの (NCP) を表しています。生物多様性はあらゆる圧力カテゴリの影響を受けるため、これらの指標では、特定の場所の環境の状態に関する総合的な情報を提供し、すべての圧力に敏感な指標を補完します。

1つの生態系レベル指標と1つの種レベル指標を評価する必要があります(must)、オプションでNCP指標を評価することもできます。一部のSoNB指標は陸域または淡水の生物多様性のみを捉えていることに留意し、活動や圧力に関連する指標を使用する必要があります(must)。たとえば、淡水種の個体数 (SoNB) は、取水量 (圧力) と水の利用可能性、そして自然の状態 (SoNP) 指標を補完するものとして重要です。

マテリアルな圧力カテゴリ	SoNP指標
土地利用と土地利用の変化	生態系の範囲と生態系の健全性/完全性(生態系の構造、機能、構成)
水利用	地表水の流れは、Hogeboom (2020) またはネイチャーSBTsの統合水利用データセットによって定義されます(空間解像度による)。オプション: 地下水位
土壌汚染	土壌中の栄養塩汚染レベルまたはその他の土壌汚染指標(栄養塩が関連しない場合)
水質汚染	淡水の栄養塩汚染レベル(河川中の窒素またはリンの濃度)。空間解像度に応じて、McDowell(2020) またはネイチャーSBTsの統合水質汚染データセットによって定義されます。

ネイチャーSBTsステップ1のツールボックスにあるツール（またはネイチャーSBTsデータ品質基準を満たすその他のツール）を使用して、直接操業および上流の各場所の自然の状態の値を確認してください。

### ➔ 本作業で得られるもの:

- ・ 各企業活動のマテリアルな圧力カテゴリに一致する自然の状態 (SoNP) 指標と、少なくとも2つのSoNB指標が補完された作業8の表。

## 有用なリソース

オンライン目標設定ガイドの[ステップ 1 リソース](#)の項目に次の資料があります。

- ステップ 1 技術ガイダンス V1.1
- ステップ 1 & 2 のテクニカルFAQ
- 影響度の高いコモディティリスト
- マテリアリティのスクリーニングツール
- ステップ1 ツールボックス
- ネイチャーSBTsのデータ品質基準
- 水量統合レイヤー
- Hogeboomのグローバル水量アプリ
- 水質統合レイヤー
- McDowellのグローバル水質モデルの結果
- 仮想ケーススタディ - Ursus Nourishment社

## 用語集

**組織のバウンダリ（境界）：**企業の所有権または管理下に直接属し、目標設定の責任を負っている事業操業。

**影響の大きいコモディティ：**EUの新たな森林破壊防止規則（EUDR）に記載されているものを含め、生物多様性損失の主な要因であることが知られており、バリューチェーン評価におけるデータ収集の優先順位が付けられているコモディティ。

**マテリアリティ：**社会的観点から、自然への影響の環境的重大性を説明する用語。

**圧力：**経済活動が自然に影響を与える方法・要因。たとえば、取水、土地利用の変化、汚染物質の排出など。

**自然の状態：**特定の場所における自然がどの程度健全または脆弱であるか（およびその場所における自然が圧力に対してどの程度影響を受けやすいか）を表します。例としては、水の可用性、生態系の範囲、汚染物質の濃度など。

**事業部門：**目標設定の焦点として選択できる、業務の個別の部分。



2

# ステップ2:

活動を解釈して優先順位を付ける



## ステップ 2 を完了すると、 下記を達成できます：



マテリアルな各圧力カテゴリに対して目標  
バウンダリを定義し、ネイチャーSBTsが  
必要な活動と場所を特定。



これらの目標バウンダリ内の場所をランク  
付けし、環境のマテリアリティに基づいて  
最初に行動する場所を定義づけ。



環境のマテリアリティランキングに沿って、  
その他の社会的優先事項、自然への依  
存、戦略的なビジネス要因を考慮して、最  
優先の場所を特定。



## なぜ自社活動を自然への影響に基づいて解釈し、優先順位を付けるべきか？

ステップ 1 では、活動によって生じる環境への圧力と、バリューチェーンの場所における自然の状態を推定しました。しかし、この概観では、目標設定の取り組みをどこに集中させるのが相対的に重要か、または重要でないかについては示されていません。ステップ 2 では、バリューチェーンの各サイトにおける環境の健全性（または脆弱性）と圧力を比較検討して優先順位を付けることが可能です。企業の戦略的ニーズだけでなく社会的ニーズも組み込まれることで、実現可能性とリスクを考慮した、より総合的な優先順位付けアプローチが生まれます。

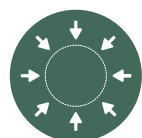
ステップ 2 の主目的は、目標バウンダリ内のすべてのサイトを、それぞれのサイトで行動を起こすことの重要度によってランク付けし、最初の目標設定のための最優先場所の候補リストを定義することです。また、ステップ 3 でネイチャー SBTs を設定する準備として、操業データと場所データを適宜整理します。

/// ステップ 1 と 2 の結果が得られた後、一部の調達場所のリスクを軽減するために迅速な措置を講じました。///

ネイチャー SBTs 2024 パイロット企業

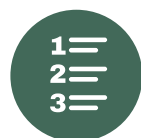
# 自社活動が自然に与える影響を考慮して、どのように解釈し、優先順位をつければ良いか？

ステップ 2 は 3 つの細分化された手順で構成されています。



## ステップ2A

ステップ 2a、**目標バウンダリの線引き**は、ステップ 2 の重要な部分です。4つの圧力カテゴリに対する**目標バウンダリ**を定義します。そのカテゴリおよびバリューチェーンセグメント(例:直接操業と上流セグメント)におけるすべてのマテリアルな活動の場所から構成されます。最終的には、科学に基づく目標は目標バウンダリ全体をカバーすることが必須となります (required)が、ステップ 2c では、最初は小さな選択から始めて行くことが有用でしょう。さらに、トレーサビリティが限られているマテリアルな活動は当面保留されます。



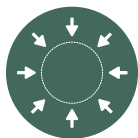
## ステップ2B

ステップ 2b の**解釈とランク付け**では、ステップ 1 の環境指標を処理して値を比較できるようにする必要があります。これは、範囲を正規化し、空間範囲を調和させることを意味します。次に、すべての場所の圧力と自然の状態の指標を統合し、環境要因を考慮して、それぞれの場所で行動を起こすことの相対的な重要性を示す総合ランキングを作成してください。



## ステップ2C

ステップ 2c の**優先順位付け**は、社会正義とステークホルダーの優先事項、自然に対するビジネス依存、戦略的優先事項 (リスクと財務の重要性を含む) を考慮する時です。個々の目標バウンダリ内で指定期限(カットオフ)を適用するか、目標バウンダリ全体にわたる相乗効果の可能性を考慮して、初期目標設定を進めるための最優先の場所を決定することができます。



## ステップ 2A: 目標バウンダリの線引き

作業

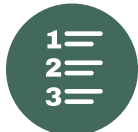
1

**各圧力カテゴリーの目標バウンダリを決定する**  
各圧力カテゴリーのすべてのマテリアルな活動と場所を含み、目標設定の対象となる空間領域を明確にする。

作業

2

**バリューチェーントレサビリティが不十分な量のも  
のを別の目標バウンダリに配置する**  
国家レベルでの把握または精度が低い上流の場所については、  
目標を設定する前に追加の追跡可能性が必要になる。



## ステップ 2B: 解釈とランク付け

作業

3

**空間単位の圧力と自然状態の場所の解像度を整合させる**  
全活動を互換性のある空間単位にグループ化する。各空間単位  
で圧力データを集計する。

作業

4

**全ての圧力カテゴリーのインデックス値を作成する**  
各空間単位で圧力とそれに対応し敏感な自然の状態指標を正  
規化し乗算する。

作業

5

**環境行動の緊急度に応じて場所をランク付けする**  
インデックス値と生物多様性に関する自然の状態データに基づ  
いて、場所を総合ランキングで優先順位付けする。



## ステップ 2C: 優先順位付け

作業

6

**ステークホルダーのエンゲージメントを通じて社会的  
公正の優先事項を理解する**  
ステークホルダーをマッピングし、上位ランクの場所における地  
域のニーズと関係を特定する。

作業

7

**ビジネスの自然への依存を分析・評価する**  
上位ランクの地域の人々に対する自然の貢献が、継続的な事業  
運営にどのように影響しているかを特定する。

作業

8

**戦略的な優先事項、リスク、行動能力を考慮する**  
上位ランクの場所で行動を起こす(または起こさない)ための目  
標と規制または評判のリスクを設定する実現可能性について  
評価を行う。

作業

9

**目標バウンダリ内で優先順位を付ける**  
すべての要因と目標バウンダリを越えたコベネフィットの可能性  
を考慮して、目標を設定するための最優先の場所を決定する。



## ステップ 2A: 目標バウンダリの線引き

作業  
1

各圧力カテゴリーの目標バウンダリ  
を決定する



全てのマテリアルな直接操業と上流  
バリューチェーンの場所を含める



直接操業の目標バウンダリ

国家レベルの把握を超えたより正確な場所



上流目標バウンダリ

国家レベルの把握を超えたより正確な場所



上流B目標バウンダリ

国家レベル、多国籍、および未知の場所

作業  
2

トレーサビリティが不  
十分な上流ボリューム  
を目標バウンダリBに  
配置する

こちらのインフォグラフィックでは、ステップ 2a: 目標バウンダリの設定を実装するために実行する主なアクションについて説明しています。ここでは、バリューチェーン セグメントとトレーサビリティのレベルによっては、各圧力カテゴリーのすべてのマテリアルな活動が、個別の目標バウンダリに配置されます。

1

2



1=  
2=  
3=



3

## 目標バウンダリの考え方

ネイチャーSBTsでは、目標のバウンダリを明確に定義する必要があります。目標バウンダリとは、特定のバリューチェーンセグメントにおける企業の活動、それらの活動が行われる場所、およびそれらに伴う環境への圧力の集合であり、科学に基づく目標(SBT)によってカバーされる必要があります(must)。目標バウンダリは、活動の環境的マテリアリティ(ステップ 1a で決定)に基づいて定義されるため、各圧力カテゴリに固有のものとなります。これらは、直接操業と上流の活動について別々に区分されます。

ステップ 2b と 2c は、目標バウンダリ内のどの場所に最初に目標を設定すべきかを特定するのに役立ちますが、目標バウンダリ内の残りの活動と場所の目標設定に向けては、それを継続的に進めるための計画を立てることが推奨されます。ネイチャーSBTsはこの進捗のペースに関する具体的な要件はありませんが、目標の実施と認定を行っている大規模な企業グループからの学びを経て、この要件は今後の方法のバージョンに反映される予定です。

# ステップ2A: 目標のバウンダリをどのように定義すれば良いか?

作業

## 1 各圧力カテゴリーの目標バウンダリを決定する

土地利用と土地利用の変化、水利用、土壌汚染物質、水質汚染物質の各圧力カテゴリーに関して、ステップ 1a、作業 5 でマテリアルとして定義されたすべての直接操業活動を、関連する場所やその他の情報とともに特定してグループ化します。これらの活動とそれらが包含する空間領域は、「[圧力カテゴリー名]直接操業目標バウンダリ」として定義されます。

同様に、これら 4 つの圧力カテゴリーごとに、ステップ 1aの作業5でマテリアルとして定義された上流活動をすべて特定します。ステップ 1bの作業7 で最も影響のあるバリューチェーンの段階に関連し、少なくとも国家レベルを超えて把握している場所を特定します。これらの活動とそれらが包含する空間領域は、「[圧力カテゴリー名]上流目標バウンダリA」として定義されます。

直接操業の目標バウンダリと上流の目標バウンダリ A 内のすべての活動は、短期的にはステップ 3 の目標設定に適していると考えられ

ます。空間データの粒度によっては、実際に目標を設定する前にデータを調整する必要がある場合もあります。適用範囲には 4 つの圧力カテゴリーがあるため、8 つの個別の目標バウンダリ (2 つのバリューチェーン セグメント × 4 つの圧力カテゴリーに対応) が作成されることに注意してください。



### 留意事項:

- 異なる目標バウンダリに属する活動やデータについて、合体や結合をしないでください。



### 本作業で得られるもの:

- 必須(required)圧力カテゴリーごとに、直接操業の目標バウンダリと上流目標のバウンダリA が定義されます。

1

2



1  
2  
3



3

## 作業 2

# バリューチェーンのトレーサビリティが不十分な量のものを別の目標バウンダリに配置する

ステップ 2a、作業 1 では、少なくとも国家レベルより正確な場所を把握していないすべての上流活動は、上流目標バウンダリ A から除外されました。これらは、国家レベル、多国間(regional)レベル、大陸レベルで場所が特定されているか、または完全に不明な場所です。

ステップ 3 の大部分では、地域(local)レベルまたは国家を超えたより詳細なレベルまでのトレーサビリティが必要となります。短期間でバリューチェーン全体にわたってこのレベルの透過性を達成することが実現できない場合、それらをステップ 2 とステップ 3 の後続の全作業から除外してください。

これらの活動、関連する量、および場所(不明な場所を含む)をグループ化し、「[圧力カテゴリーの名前] **上流目標バウンダリB**」というラベル付けしてください。

一部の上流活動を目標バウンダリ B に分離することで、サプライチェーンのトレーサビリティにおける業界全体の既存の課題が認識されます。目標バウンダリB は、企業のトレーサビリティの現状を考慮して

実現可能性を高めるために導入されました。これらの場所に対してすぐに目標を設定することは必須ではありません(not required)。今後のガイダンスでは、トレーサビリティを向上させるために実行する必要があるアクションと、この作業を完了するための具体的なタイムラインについて、更なる詳細を説明します。

### 今後の見通し:

- ・ネイチャーSBTsは、企業が目標バウンダリB 内の量のトレーサビリティを強化し、新規認定の前に(ほぼ)完全なバリューチェーン カバレッジを確保するための追加要件を実装することを推奨しています。SBTネットワーク は、バリューチェーンのトレーサビリティを向上させる取り組みを支援する補足ガイダンスを開発中です。

### 本作業で得られるもの:

- ・必須(required)圧力カテゴリーごとに定義された上流目標バウンダリB。



こちらのインフォグラフィックでは、さまざまな環境的、社会的、戦略的要因を考慮して、各目標バウンダリ内で最優先する場所を定義するため、ステップ 2b: 解釈とランク付けと 2c: 優先順位付けを実行する主なアクションについて説明しています。

1

2



1  
2  
3



3



## ステップ 2B: 解釈とランク付け



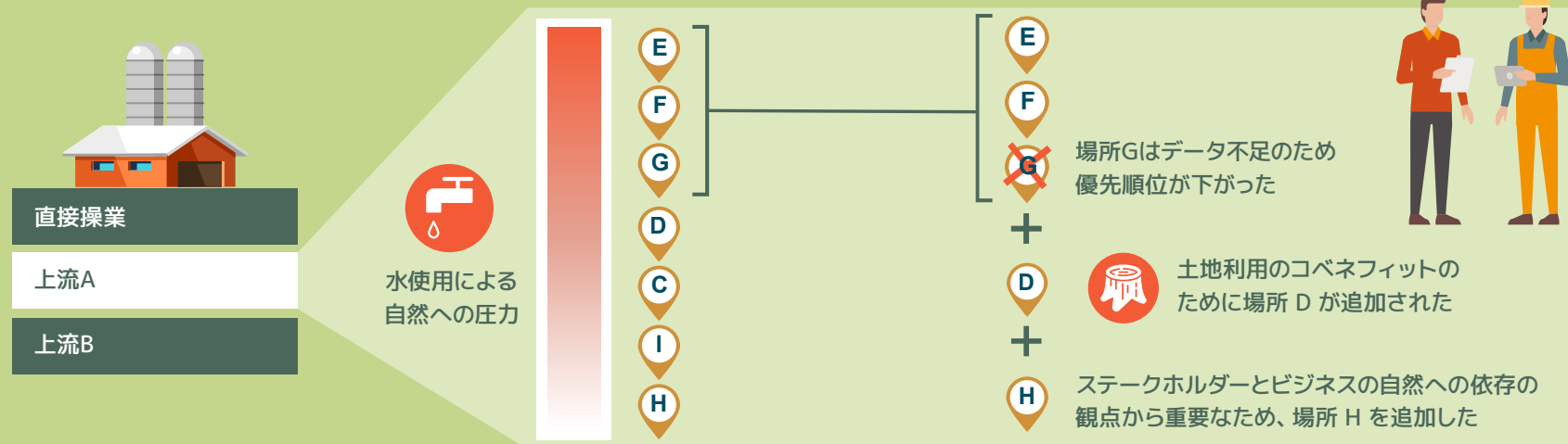
## ステップ 2C: 優先順位付け

作業  
3-5

各目標バウンダリの全ての場所を、その場所で行動を起こす環境緊急度によって優先順位付けを行う

作業  
6-8

社会問題や正義の問題、自然に対するビジネスの依存、各場所での戦略的な優先事項と行動能力に基づいて優先順位を決定する。



作業  
9

ランキング、追加の優先順位付け要因、およびコベネフィットの可能性に基づいて、各目標バウンダリ内の優先サイトを最終的に選択する



# ステップ2B: 場所をランク付けするにはどうすれば良いか?

作業

3

## 空間単位を整合させる

それぞれの活動に関連する圧力と自然状態の指標は、異なる空間スケールで定義される可能性があります。たとえば、圧力指標は特定の座標または原産国に関連付けられる場合がありますが、関連する自然の状態指標は国家レベルを超えた場所またはランドスケープ区画（流域など）を参照する場合があります。同じ活動に使用される2つのスケールのうち、それぞれの場合により解像度が粗い方（すなわち、ランドスケープではなく国家レベルなど、より具体的でない方）を選択してください。

同じ場所にある全活動をグループ化してください。例えば、ある活動に対して流域がより粗いスケールであることを特定した場合、同じ流域に含まれる他のすべての活動（およびその量と圧力）のクラスターを作成してください。

同じ場所にあるすべての活動の圧力値を集計してください。たとえば、流域のすべての活動の圧力（取水）を追加することが挙げられます。

### 留意事項:

- 本作業は、ステップ 2b およびステップ 2c の他の全作業と同様に、上流目標バウンダリA での直接操業と活動にのみ適用されます。

### 本作業で得られるもの:

- 各圧力と自然の状態の指標、場所データが統一された空間単位に変更された状態の貴社活動表(目標バウンダリごとに個別となっている表)。

1

2



1=  
2=  
3=



3

## すべての圧力カテゴリのインデックス値を作成する

作業4 では、各場所の圧力と自然の状態値を次のように計算して、**圧力に敏感なインデックス値 (Ip)** を算出します。

$$I_p = P \times \text{自然の状態(SoNP)}$$

インデックス値を作成する前に、圧力と自然状態の指標を正規化する必要があります(must)。

各地理的場所の Ip 値を記録し、それらの値をその場所での特定の活動に関連付けます。

圧力に敏感なインデックス値を使用すると、圧力の大きさと、その場所の自然の状態の脆弱性に基づいて、さまざまな地理的場所での行動の相対的緊急性を検討できます。

この作業は各目標バウンダリに個別に適用されることに注意してください (これに伴って、各目標バウンダリに対して個別の圧力インデックス値が生成されます)。

 **本作業で得られるもの:**

- 各場所に Ip 値が追加された作業3の表 (目標バウンダリごとに個別の表)。

## 環境行動の緊急度に応じて場所をランク付けする

**作業5** では、 $I_p$  値に基づくランキングと（生物多様性の自然の状態指標である）SoNB 値に基づくランキングの 2 つの別個のランキングを作成し、それらを組み合わせます。

まず、各目標バウンダリ毎に、 $I_p$  値に基づく場所を最高から最低の順にランク付けを行ってください（最高値というのは最も悪化した場所またはリスクの高い場所を指します）。

この時点で、淡水目標バウンダリ（水の使用と水質汚染）から特定の活動と場所を除外することもできます。これは、流域が総圧力の 1% 未満を占め、自然の状態が健全な場合（つまり、そこに変更を加える必要がほとんどない場合）に当てはまります。次に、目標バウンダリ内の（同じ）場所について、SoNB 値を考慮した 2 つ目のランキングを作成してください（ここでも、最も高い場所は最も悪化した場所またはリスクの高い場所を指します）。なお、ステップ 1b で少なくとも 2 つの生物多様性指標（例として、種レベルで 1 つ、生態系レベルで 1 つ）を収集したので、まずは圧力指標と自然の状態（SoNP）指標の場合と同じ方法で、それらの空間解像度を調整し、正規化する必要があります。各場所について、2 つの SoNB 値のうち最も高い値のみを保持し、これらの値を使用して、SoNB ランキングを作成してください。

その後これら 2 つのランキング（ $I_p$  値のランキングと SoNB 値のランキング）を統合し、総合ランキングを作成してください。この方法としては、まず、いずれかのランキングで最高ランクの場所を、総合ランキングの 1 位に配置します。これらが 2 つの異なる場所であると仮定した場合、重複を避けるため、もう一方のランキングからそれらを削除します。次に、（いずれかのランキングの）次点でランキング上位にある場所を取り上げ、それらを総合ランキングの 2 番目の位置に配置します。ここでも重複を避けるために、再度、もう片方のランキングからこれらの場所を削除してください。

このプロセスを続けると、**総合ランキング**では、 $I_p$  または SoNB 値に基づいて最も重要とランク付けされた場所が最上位に表示され、 $I_p$  リストまたは SoNB リストのいずれでも上位にランク付けされていない場所は最下位に表示されます。この総合的なランキングに基づき、次の作業の優先順位が決まります。

### ➡ 本作業で得られるもの:

- ・ 所が総合ランキング値によって並べ替えられた作業5 の表（目標バウンダリごとに個別の表）。
- ・ 中間の成果物で： $I_p$  ランキングと SoNB ランキング用に別々の表を作成する必要がありますが、これらは本作業以外では使用されません。



## ステップ2C: 目標設定で場所を順位付けするにはどうすれば良いか?

### 作業 6

### ステークホルダーのエンゲージメントを通じて社会的公正の優先事項を理解する

作業6、7、および8では、環境の緊急性に基づくランキングに追加の要素を補完する3つの補完的なアプローチが提供されます。作業9に進む前に、これら作業の少なくとも1つ（またはそれらの任意の組み合わせ）を完了する必要があります(must)。

**作業6**では、作業5で生成された総合ランキングから、ランク上位の場所に関連する社会問題や公正の問題、または社会目標を特定し、最初のまたは次の目標設定ラウンドでそれらの地域を優先することを検討できます。

作業6を完了するには、まずステークホルダーのマッピングプロセスに(NCPへの依存度を含みつつ)着手し、既存のステークホルダー目標(ステップ3)または達成(ステップ4)プロセスの一部としてのステークホルダーとのエンゲージメントの機会を特定する必要があります(must)。マッピング作業では、先住民、地域社会、その他の影響を受けるコミュニティに重点を置くことが推奨されます。本マニュアルの今後の技術ガイダンスセクションで紹介されるネイチャーSBTsステークホルダーエンゲージメントガイダンスは、本作業を準備、完了するための有用なリソースとなります。

#### 📄 本作業で得られるもの:

- ・ 評価対象の場所におけるニーズ、関係性、機会の文書化。



作業7では、作業5で生成された総合ランキングから、ランクの高い場所におけるNCP（つまり、生態系サービス）に企業の継続的な事業がどのように依存しているかを特定し、最初の、あるいは次の目標設定ラウンドでそれらの場所を優先することを検討することが可能です。

ENCOREなどのデータセットを使用すると、活動の自然に対する一般的な（つまり、セクター平均の）依存度を素早くスクリーニングすることが可能です。[Nature Risk Profile](#)が提供する方法論は、特定の場所における依存度計算に有用です。本評価の完了のために推奨される追加ツールは、ネイチャーSBTs手法とツールボックスにあります。



#### 本作業で得られるもの:

- ・ 選択した場所における自然への依存度の評価（定量的または定性的）。



## 戦略的な優先事項、リスク、行動能力を考慮する

作業8では、作業5 で生成された総合ランキングから、上位にランクした場所の戦略的要因と実現可能性要因を考慮し、それらの要因に基づいて、最初の目標設定または次の目標設定で優先サイトを調整することが必要となるサイトを検討できます。

実現可能性の観点から、ステップ 3に進むために必要なデータ品質がどこにあるのか、またはそれを取得できるかどうかを検討することが推奨されます。例えば、圧力を推定値ではなく測定値で認識し、適切なレベルの空間粒度で位置を把握することで、目標を設定する能力が大幅に向上し、目標達成に向けた行動をとる柔軟性も高まります。データが不足している場所でトレーサビリティを高めるための選択肢を迅速に評価することも、この作業の一部として考えられます。例として、既存の認証の取り組みや確立されたサプライチェーン関係を通じて評価することが挙げられます。

戦略的重要性の観点からは、特定の場所で活動する(しない)ことによって直面する可能性のある規制リスクや評判リスクを考慮することができます。たとえば、規制がすぐに変更される可能性があったり、一般市民からより厳しく監視されている管轄区域においてなどです。また、特定の場所の戦略的重要性、たとえば事業運営における財務的重要性、組織にとっての歴史的重要性、成長や新しいビジネス チャンスの見通しなどを検討することもできます。

### ☞ 本作業で得られるもの:

- ・ 評価対象地域における実現可能性と戦略的要因が文書化されたもの。



## 目標バウンダリ内で優先順位を付ける

前述の 3 つの作業のうち少なくとも 1 つを完了したら、作業 9 に進み、最初の目標設定または次の目標設定ラウンドで目標を設定する優先サイトの候補リストを選択してください。目標バウンダリ内の全活動は、最終的には目標でカバーされる必要があります(must)が、特定の場所を優先したい場合があるかもしれません。

本選択の基準として作業 5 の総合順位を採用し、作業 6、7、8 で各場所について収集された情報をその順位と照らし合わせて確認する必要があります(must)。最終的な優先順位リストを作成するには、目標バウンダリ固有の指定期限、または共通利益を考慮したバウンダリを越えた指定期限という 2 つのアプローチのいずれかを適用することが可能です。

### 個々の目標バウンダリ内での優先順位付け

#### 水量と水質の目標バウンダリの場合：

ランキングの上位 10 か所（100 か所を超える場合は上位 10%）を各目標バウンダリの最優先事項として定義します。これは、直接操業と上流セクションで別々に実行されることに注意してください。

#### 土地利用および土地利用の変化と土壤汚染の目標バウンダリの場合：

これらの各目標バウンダリの上位 2 つの場所を最優先のサイトとして指定してください。各目標バウンダリの空間領域の何パーセントがその場所でカバーされているかに注意を払ってください。ステップ 3 のランドスケープエンゲージメント目標は、これらの場所の 1 つまたは 2 つ（サイズによって異なります）をカバーします。

### 目標バウンダリを越えた（コベネフィットのための）優先順位付け

特定の活動や場所は、必ずしも最優先の選択ではないものの、複数の目標バウンダリにわたって高いランクにランクされることがあります。複数の問題領域での取り組みから得られる共通の利益（コベネフィット）を活用するために、これらの場所を特定し、それらを（以前に選択した場所の次に）優先度の高い場所として検討することができます。

#### 👉 本作業で得られるもの：

- ・ 各目標バウンダリの最優先サイトと、(土地利用および土壤変化の汚染リストの場合)その場所に関連する地表面の候補リスト。

## 有用なリソース

オンライン目標設定ガイドの[ステップ 2リソース](#) セクションに下記の資料があります。

- ステップ 2 技術ガイダンス V1.1
- ステップ 1 と 2 のテクニカルFAQ
- ENCORE データセット
- ステークホルダーエンゲージメントガイダンス
- 自然リスクプロファイルツール(Nature Risk Profile Tool)
- 仮想ケーススタディ - Ursus Nourishment社

## 用語集

**目標バウンダリ:** 特定のバリューチェーンセグメントにおける企業活動のセット、活動が行われる場所、およびそれらに関連する環境への圧力。これらは、科学に基づく目標によってカバーされる必要があります(must)。

**圧力に敏感なインデックス値 ( $I_p$ ):** 各場所の圧力(P)と自然状態の指標(SoNP)を組み合わせた指数値で、特定の場所の圧力を下げることの相対的な緊急性を考慮するために使用されます。

**複合ランキング:** 圧力に敏感なインデックス値( $I_p$ )と生物多様性の自然状態の指標(SoNB)を組み合わせて、特定の場所における行動の相対的な緊急性を定義する指数。

**依存 (自然への依存度):** これは、企業が事業運営において自然(天然資源や生態系サービスなど)にどれだけ依存しているかを表します。たとえば、農業関連企業は生物多様性からの受粉や、地下取水のために集水域に依存しています。





3

# ステップ3:

淡水目標の測定・設定・開示



## ステップ 3 を完了すると、 下記を達成します：



目標を設定するための水量または水質モデルを特定する。

---



目標を設定している流域におけるベースライン取水または栄養塩汚染物質負荷を計算する。

---



自然のニーズに合わせて水量や水質の目標を計算する。



## 淡水に関する科学的目標の設定

ステップ 3 淡水手法における**淡水量 (取水)** と**水質 (栄養塩負荷)** は、淡水システムに対する環境圧力を軽減するための目標を定義するのに役立ちます。目標は、環境の容量と同システムに対する人間の圧力の現状に応じて定義されます。本アプローチは、単に一般的な方向性を示すのではなく、科学に基づく適切な野心レベルの目標へと導きます。

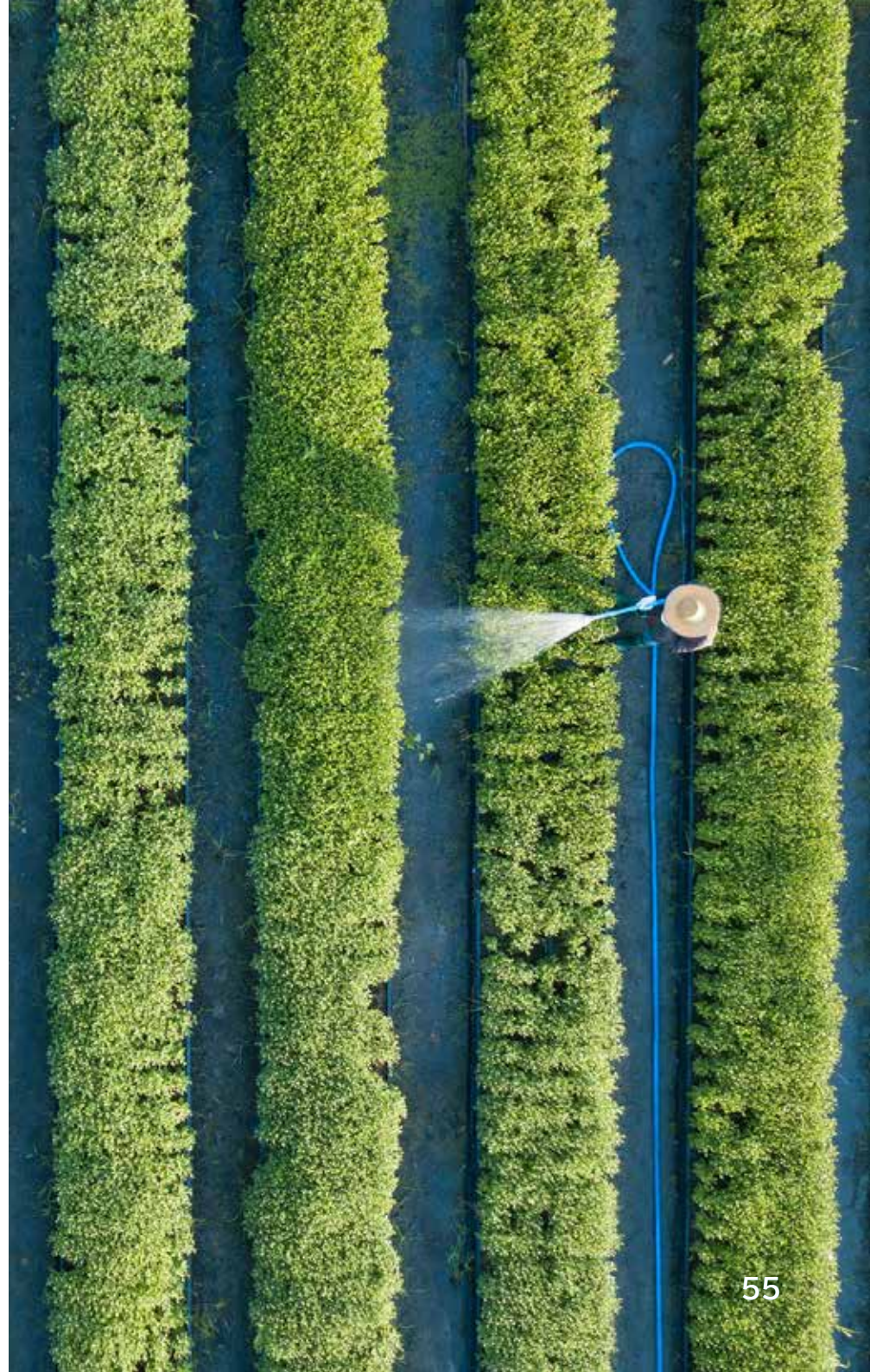
/// とてつもない変化をもたらした・・・というのは、私たちの水に対する野心には多くの遺産があり、計量効率と規制が常に原動力でした。富栄養化ではありませんでした。///

ネイチャーSBTs 2024 パイロット企業

淡水に関する科学に基づく目標がなぜ重要なのか、またそれが関連する企業の水管理の取り組みとどのように関連しているのかについての詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

ステップ 2 を完了すると、環境、社会、企業のさまざまな要因を考慮して、どの調査地点が最もプラスの影響を与える可能性があるかがわかります。これらの所在地は、流域を流れる水の量と質に関して独特の水文学的条件を持つ特定の流域に位置します。流域は、環境の健全性を損なう前に、取水や栄養塩汚染物質負荷（これは、以前に独自の活動について定量化したもの）などの環境圧力に耐える能力も異なります。

ステップ 3 淡水の主な目的は、(i) 流域に適した水文モデルを特定し、このモデルを使用して流域の健全性を守るために必要な流域全体の取水と栄養塩負荷量の削減を決定すること、および (ii) 均等な努力配分アプローチを適用して企業の圧力削減目標を定義することです。



# 淡水目標への取組は、 自然と生物多様性に どのように貢献するのか？

人間の活動による多くの圧力が、健全な淡水システムの機能に影響を与えます。**水量**に関して、ステップ 3 の作業の現在のバージョンは、取水、つまり地表水源（河川や湖）と地下水源（帯水層）からの水の取水に重点を置いています。

取水により環境中の水量が減少し、生態系内の植物や動物を維持する能力と、飲料水、衛生、レクリエーション、交通などの人間のニーズを満たす環境の能力が低下する可能性があります。水の流れの減少やそれに伴う生態系の変化は、汚染物質の相対濃度の上昇などにより、土壌構造、地域の気候、さらには**水質**にも影響を及ぼす可能性があり、その他にもさまざまなインパクトが生じる可能性があります。

科学に基づく**水量**目標は、各流域で環境流量が維持されるように計算されます。**環境流量**とは、生態学的プロセスを維持し、生息地や種の生存に必要なその他の要件を保護するために必要な最小限の水流量です。地下水の閾値は、地下水の枯渇を回避することで淡水の連結性を守ります。

雨水の使用、インフラ（ダムを含む）による水システムの混乱、流域間の水量の転換など、**水量**に対するその他の圧力は、現在のバージョンの方法ではカバーされていません。

**水質**に関しては、現在のステップ 3 の方法では、栄養塩汚染、具体的には窒素とリンの負荷に焦点が当てられています。

水と土壌に自然に含まれる窒素とリンは、水生生物を含むすべての生物の成長に不可欠です。しかし、これらの栄養塩が大量に存在すると、藻類やシアノバクテリアなどの生物が急速かつ過剰に増殖することになります。これらの生物が最終的に死ぬと、そのバイオマスの分解によって水系に溶解している酸素が枯渇し、他の水生生物の窒息につながります。このプロセスは富栄養化と呼ばれ、藻類やシアノバクテリアによって生成された場合、環境に毒素を放出し、他の水生植物への日光をブロックする可能性もあります。酸素の少ない水が川を下り、海に流れ込むため、富栄養化は淡水系を超えて沿岸地域にまで広がる可能性があります。

科学に基づく**水質**目標は、水系内の栄養塩濃度が藻類やシアノバクテリアの過剰な増殖につながる閾値を下回り、富栄養化の影響を回避するように計算されます。

現在の方法論では、他の汚染物質の負荷（栄養塩以外）や、濁度（例えば、堆積物の放出）に影響を与える活動、水温を変化させる活動（例えば、冷却水の放出）など、**水質**に影響を与える他の要素や活動はスコープ外とします。



## 淡水目標は流域別に

すべての流域は、地域の気候、地形、土壌条件、地域の生物多様性など、さまざまな要因によって変化します。人間は、取水であれ、栄養塩汚染物質の流入であれ、人口や経済活動などの要因に応じて、各流域にさまざまな程度の圧力をかけています。このため、淡水目標は流域ごとに設定されており、各流域の基準圧力と最大許容圧力の差として定義されます。

# 淡水目標をどのように測定、設定、開示すれば良いか？

ステップ 3 淡水は次の 4 つの細分化された手順に整理されます。



## ステップ3A

ステップ 3a の**水文モデルの選択**は、ステークホルダーとの協議プロセスから構成され、流域内の目標を設定するために使用する適切な水文モデル（ローカルまたはグローバル）を特定します。協議は意思決定ツリーによって促進され、協議のリソース集約的な部分を優先度の高い流域に集中させるのに役立ち、ローカルモデルがすぐに見つからない場合に何をすべきかについての推奨事項を提供します。



## ステップ3B

ステップ 3b の**ベースライン圧力計算**では、ステップ 1 で取得した環境データが部分的に使用されます。主な目的は、同じ流域にある他の活動を特定し、それらすべてから生じる圧力を集約して、目標がそのエリア内のすべての活動をカバーできるようにすることです。




## ステップ3C

ステップ 3c の**環境閾値の特定**では、ステップ 3a で特定されたモデルを使用して、流域の自然（つまり、人間の活動がない場合）および実際の（つまり、観察された）状態を理解し、これらのデータに基づいて、生態学的プロセスを保護するために流域レベル（つまり、個々の活動を超えて）で環境圧力をどの程度軽減する必要があるかをモデルが推定します。



## ステップ3D

ステップ 3d の**淡水目標設定**は、企業の目標を定義するステップです。これは、流域全体で必要な削減を流域の独自のベースライン圧力に適用することによって行います。

An underwater photograph showing a clear, sunlit body of water. Several fish of various species are swimming throughout the scene. In the foreground and middle ground, there are numerous submerged logs and branches, some of which are covered in a light-colored, fuzzy growth, possibly algae or fungi. The water is a vibrant turquoise color, and the overall scene suggests a healthy, natural aquatic ecosystem.

## ステップ3 淡水では生物多様性にどのように対処しているか？

淡水の手法では生物多様性指標は明示的にはカバーされていませんが、量的目標と質的目標の両方の目標野心レベルを通知する閾値内に生物多様性が組み込まれています。つまり、定量目標は環境の流れの維持を確実にし、質的目標は富栄養化の回避を確実にし、どちらも生物多様性に直接結びついています。





## ステップ 3A: 水文モデルの選択

作業  
**1**

### 活動領域または場所を特定する

優先調査地点が位置する河川流域（Pfastetter レベル 4 または 5）を特定する。

作業  
**2**

### ローカルモデルに関してネイチャーSBTs閾値ツールを参照する

その河川流域のローカル水文モデルについては、ネイチャーSBTsのモデルデータベースを確認する。もしある場合、それを選択して目標を設定し、作業6に進む。

作業  
**3**

### 国内ステークホルダーと協議する

作業2でローカルモデルが見つからなかった場合、その国の政府機関や NGO ステークホルダーに適切なローカルモデルを問い合わせた上で目標を設定する。ある場合は、それを選択して目標を設定し、作業6に進む。

作業  
**4**

### 地元のステークホルダーに相談する

作業3でローカルモデルが見つからなかった場合は、地域のコミュニティや専門家に、目標を設定するための適切なローカルモデルについて問い合わせる。ある場合は、それを選択した上で目標を設定し、作業6に進む。

作業  
**5**

### (必要に応じて) グローバルモデルを選択する

以前の作業でローカルモデルが見つからなかった場合は、ネイチャーSBTsによって事前に選択されたグローバル水文モデルを使用して目標を設定する。



## ステップ 3B: ベースライン圧力計算

作業  
**6**

### 流域における企業活動をまとめる

モデルの空間範囲を確認し、そのエリア内のすべての調査地点からの圧力を集計する。

作業  
**7**

### ベースラインを計算する

これらすべての調査地点からの圧力を集計して、モデルでカバーされるエリアの合計を算出する。



## ステップ 3C: 環境閾値の特定

作業  
**8**

### 流域のモデルアプローチを適用する

モデルを使用して、水量または水質の観点から、流域の現在の自然の状態と望ましい自然の状態に関する情報を取得する。

作業  
**9**

### 流域全体の必要な圧力削減を計算

データを用いて、流域全体の水の必要な圧力削減率を推定する。



## ステップ 3D: 淡水目標の設定

作業  
**10**

### 水量と水質の企業目標を設定

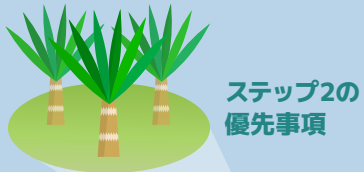
削減率を、貴社の取水量または栄養塩汚染物質負荷のベースラインに適用する。



## ステップ 3A 水文モデルの選択

こちらのインフォグラフィックでは、ステップ 3a: 水文モデルの選択を実施するために実行する主なアクションについて説明しています。本ステップでは、目標を設定する特定の流域のローカル水文モデルを探るか、ローカルモデルが利用できない場合は事前に選択されたグローバルモデルを使用します。

**作業 1** 水に関する目標は流域ごとに設定されており、その流域における企業活動すべてを対象としています

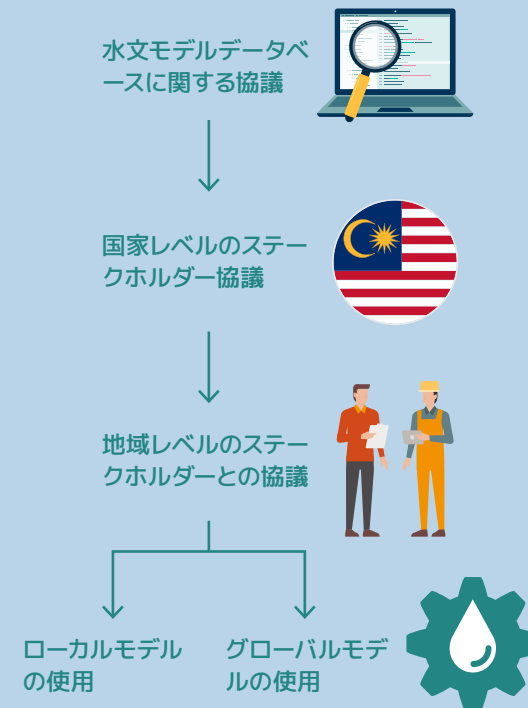


ステップ2の  
優先事項



河川流域におけるすべての  
企業活動

**作業 2-5** 複数段階の探索および協議プロセスが、適切な水文モデルの特定に有用です



## ステップ3 淡水において使用される水文モデル

ステップ 3 淡水の方法で説明したように、水量と水質に関する各流域の固有の状況を理解するために適切なモデルが使用されます。ネイチャーSBTsは、これらの各圧力カテゴリ内で、グローバルモデルとローカルモデルの 2 種類のモデルを区別します。

グローバルモデルでは空間範囲が広がるため、この方法をより広範囲に適用することが可能です。ローカルモデルと閾値が入手可能な場合、よりまばらですが、目標を設定する際の精度が向上します。

ネイチャーSBTsでは、企業に対し、最優先の流域については、それに適したローカルモデルを特定することを必須としています(required)。企業はこれらのモデルを特定するために国や地域のステークホルダーと協議する必要があり、ステップ 3 淡水の方法の最初の作業ではこの探索プロセスについて説明していただきます。

ネイチャー SBTsは、優先順位が低い場所やローカルモデルが利用できない場所で使用できる水量と水質のグローバルモデルも特定して提供しています（作業 5 でご確認ください）。



## 3A: 流域の水文モデルを選択するにはどうすれば良いか？

作業

### 1 活動領域または場所を特定する

ステップ 3 淡水の方法の最初の作業は、目標を設定する活動が行われる水域を特定することです。ステップ 1 と 2 では、国、国を超えたより詳細な地域、自治体、座標など、あらゆる規模の位置データを使用しました。データには国、国を超えたより詳細な地域、自治体、座標が含まれている可能性があります。

しかし、この時点では、行政区画ではなく、流域の観点から活動の場所を特定する必要があります。ネイチャーSBTsでは、階層的かつネスト化されたアプローチのもと河川流域を分類およびグループ化する **Pfafstetterコーディング システム** を使用しています。Pfafstetter システムでは 6 つのレベルが定義されており、レベル 6 の流域はレベル 5 の流域内に含まれ、レベル 5 の流域はレベル 4 の流域内に含まれる、というようになります。活動が行われているレベル 4 またはレベル 5 の流域を特定することは、この方法の次の作業の適切な出発点となりますが、河川流域の場所をさらに詳細に把握する必要があります。



#### 本作業で得られるもの:

- 目標を設定する流域の識別。

1

2

3





ネイチャーSBTsの水文モデル データベース（現在開発中）を参照して、目標を設定する流域に既知のローカルモデルとローカルで受け入れられている閾値があるかどうかを確認します。企業がローカルモデルと閾値を使用して目標を設定し、その目標の認定が成功する度に、その目標はデータベースに追加され（目標ダッシュボードに表示されます）、適用の地理的エリア（河川流域）も表示されます。

データベースでローカルモデルと閾値が見つかった場合は、手順 3b、作業 6 に進み、このモデルを使用して目標を設定してください。それ以外の場合は、作業 3 に進みます。

#### 本作業で得られるもの:

- 成功した場合: 地域の水文モデルの選択と目標設定のための閾値

ステップ 3 淡水の作業 2 から 5 は、目標を設定するための適切な水文モデルを特定するためのガイドとなる多段階の探索プロセスの一部です。これらの作業は、淡水技術ガイダンスの意思決定ツリーの一部です。このアプローチにより、最優先の流域でのみローカル水文モデルを見つけることに集中し、他のすべての流域で目標を設定するためにグローバル モデルの使用に迅速に移行することができます。

## 3 国内ステークホルダーと協議する

ローカル水文モデルの探索は、国家レベルのステークホルダー関係者との協議により継続されます。ネイチャーSBTsのステークホルダーエンゲージメントガイダンスは、この協議の実施方法や、作業 4 のローカルステークホルダーとの協議に関する有益なアドバイスを提供します。「今後の技術ガイダンス」に関する専用セクションをご参照ください。

流域の国に拠点を置く専門家やその他のステークホルダーを特定して連絡を取り、関心のある流域に適した地域の水文モデルを知っているかどうかを尋ねます。連絡を取ることができるステークホルダーには、国の水道当局や省庁、SBTN Freshwater Hub パートナー組織の国別事務所などが含まれます。まずは、目標を設定する国内のすべての流域を特定することをお勧めします。そうすることで、本協議は国ごとに 1 回だけ行うのみで済みます。

**ネイチャーSBTsは、適切なローカルモデルを、他の基準の中でも特に次のようなものとして定義しています：**

- 水生生態系(例えば、環境流量を含む)を保護する
- 局地的な水文や栄養素レベルに対する主要な人為的影響を考慮する。
- 既存の水利権とアクセスニーズを考慮している
- 流域に対して閾値が設定されていない場合は、ローカル閾値を計算することを可能とする

協議プロセスの記録を保存すること—これは、認定のための目標提出の一部として必要になります。国のステークホルダーが流域に対して適切性基準を満たすローカルモデルを推奨する場合は作業 6 に進み、当該モデルを使用して目標を設定してください。それ以外の場合、流域がステップ 2c の作業 9 で定義された最優先グループ内にある場合は作業 4 に進み、他のすべての流域の場合は作業 5 に進んでください。

 **本作業で得られるもの：**

- ステークホルダーとの協議の記録。
- 成功した場合：地域の水文モデルの選択と目標設定のための閾値



## 地元のステークホルダーに相談する

**作業 4** では、ローカルレベルのステークホルダー関係者との協議を通じて、ローカルモデルの探索を継続していただきます。方法の実現可能性のために、この作業は、ステップ 2c の作業 9 で最優先事項として定義された流域の 10% に対してのみ必要であり、目標バウンダリ内に 100 を超える流域がある場合は 10 の流域に対してのみ必要であることに注意してください。

関心のある流域で活動している地元の専門家やその他のステークホルダーを特定し、連絡を取りましょう。協議プロセスのこの段階で検討すべき適切なステークホルダーには、水管理機関および流域当局、政府規制当局、流域に関与する科学者および学者、地元の水関連NGOまたは国際NGOの地方支部、地域社会および/または先住民グループまたはその代表者、および水供給に関与する地方部局が含まれます。

当該ステークホルダーに、上記と同じ適切性基準を考慮して、流域のローカル水文モデルがすでに存在するか尋ねてください。少なくとも 3 つの異なるステークホルダータイプがモデルを適切と見なすことが推奨されますが、そのうちの 1 つのみから承認を得ることが必須となります (required)。適切なモデルが見つかった場合は作業 6 に進み、当該モデルを使用して目標を設定します。

流域に適したローカルモデルが知られていない場合は、同じステークホルダーに、Hogeboom (2020) と McDowell (2020) によって開発され、作業 5 で言及されている**水量と水質**のグローバルモデルがローカル条件

での使用に適しているかどうかを検討するよう依頼した上で、協議プロセスを継続してください。これは、流域が(とりわけ)次のことを意味しています:

- グローバルモデルで考慮されていない大規模な流域間移動や、水流の乱れ、または栄養塩の流下への阻害がない。
- 水利権や水へのアクセスに関連する大きな紛争の現場ではない。
- 栄養塩や酸素濃度に非常に敏感な絶滅危惧種や生態系が存在しない。

ステークホルダーがこのグローバルモデルがローカル条件に適していると判断した場合は、作業 5 に進み、グローバルモデルを使用して目標を設定します。

目標を設定するための適切なローカルモデルまたはグローバルモデルが存在しないことが判明した場合、この流域では科学に基づく目標を設定することは不可能であると結論付けることができます。相談プロセスの記録は、認定のための提出時に必要となるため、保存しておいてください。



### 今後の見通し:

- 前回の探索以降、他の企業が流域のローカルモデルを発見または開発している可能性があるため、ネイチャーSBTsの水文データベースの更新を毎年確認してください。新しいローカルモデルが流域に適しているか、データベースに追加されたことが判明した場合は、目標を設定して再送信する必要があります。



### 本作業で得られるもの:

- ステークホルダーとの協議の記録。
- 成功した場合: 地域の水文モデルの選択と目標設定のための閾値



## (必要に応じて) グローバルモデルを選択する

目標バウンダリ内の「最優先サイト」の外側にある他の流域については、国内のステークホルダーとの協議を通じてローカルモデルが特定されない場合は、グローバルモデルを使用できます。つまり、事前に選択された水文モデルを使用して目標を設定することになります。これは、作業 4 の後でローカルモデルが見つけれず、ローカルステークホルダーがグローバルモデルを許容できると結論付けた、最優先サイトの流域の場合にも当てはまります。

**Hogeboom (2020)** と **Water Footprint Assessment Tool** から構築された**水量**のグローバルモデルは、[こちら](#)でご覧いただけます。

McDowell (2020) による**水質**目標の世界モデルの結果は、[こちら](#)からご覧ください。

### 本作業で得られるもの:

- ・ 目標を設定するためのグローバルの水文モデルと閾値の選択。

1

2

3





## もしこの流域で科学に基づく目標を設定できない場合、何ができるか？

協議プロセスの記録を提示すると、この流域は一時的に水(量または質)目標バウンダリ外にあるとみなすことができます。つまり、目標バウンダリを全てカバーするためにこの流域に目標を設定する必要はなく、関連するクレーム(主張)を行うことはできません。

貴社選定の流域のローカルモデルや閾値の開発に資金を提供することで貢献することも可能です。これが貴社にとって重要な流域である場合は、本選択肢をご検討ください。

あるいは、SBTN では、[Alliance for Water Stewardship \(AWS\)](#) や [Context-Based Water Targets \(CBWT\)](#) イニシアチブなどの外部イニシアチブに連絡して、そのフレームワークやツールを使用して目標やその他の関連対策を設定することをお勧めします。これらの組織と行う作業は ネイチャーSBTs手法の範囲外となり、認定の対象にはならず、SBTN関連のクレーム(主張)を行うことはできないことに注意してください。

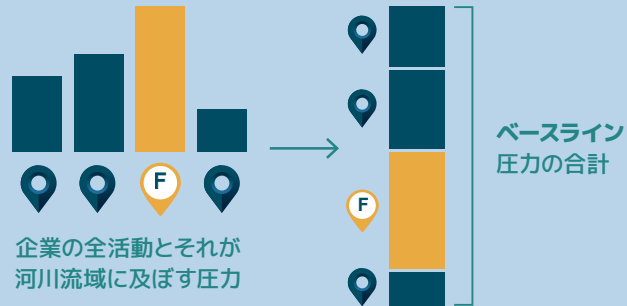




## ステップ 3A 圧力のベースライン計算

作業  
6-7

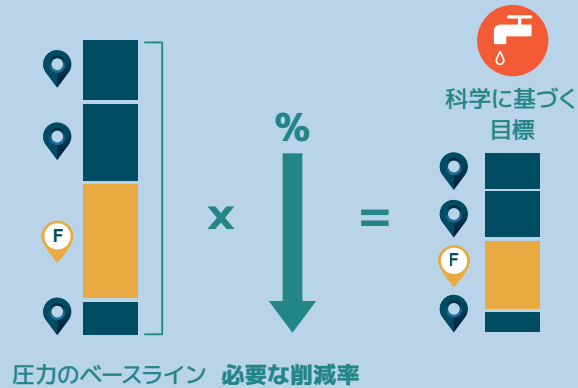
流域内のすべての活動からのベースラインの圧力（取水または汚染物質負荷）の合計を計算する。



## ステップ 3C 淡水目標の設定

作業  
10

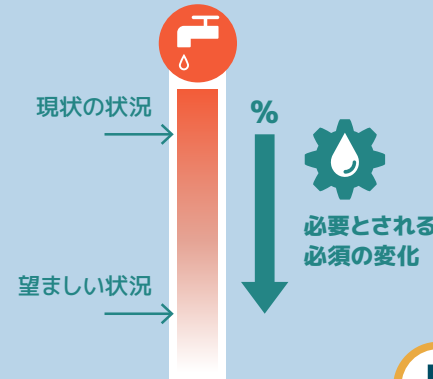
流域において必要とされる圧力の削減を、貴社の圧力のベースラインに適用することで、科学に基づく目標を設定してください。



## ステップ 3B 環境閾値の特定

作業  
8-9

水文モデルを使用して、流域に必要な環境変化に関する科学的情報を取得する。



こちらのインフォグラフィックでは、ステップ3b: ベースライン圧力の計算、3c: 環境閾値の特定、および 3d: 淡水目標設定を実行するための主なアクションについて説明しています。ここでは、水文モデルのデータを使用して流域内に必要な圧力の削減を計算し、それを各社の圧力のベースラインに適用して科学に基づく目標を計算していただきます。この図は水の使用例を示していますが、栄養塩の負荷についても基本的に同じプロセスに従います。

1

2

3



# ステップ3B: ベースライン圧力を計算するにはどうすればいいか?

作業

## 6 流域における企業活動をまとめる

前述のように、ネイチャーSBTsは流域分類に Pfafstetter システムを使用しています。流域のダイナミクスをさまざまな規模で捉えるために、さまざまなモデルが構築されます。

- Hogeboom (2020) による**水量**目標のグローバル モデルは、Pfafstetter レベル 5 の流域の水の流れをモデル化するために構築されています。
- McDowell (2020) による**水質**目標のグローバル モデルは、Pfafstetter レベル 4 の流域の栄養塩濃度をモデル化するために構築されています。
- ローカルモデルを使用している場合は、使用する流域レベルを特定する必要があります。

ステップ 3 淡水の作業 1 は、目標を設定する単一の活動或いは地点から開始しましたが、水文モデルが構築される空間スケールが判明したため、そのエリア内の他のすべての活動を特定し、目標がそれらすべてをカバーできるようにする必要があります。ステップ2の作業1の**水量と水質**目標バウンダリ(直接操業と上流目標バウンダリA)をご参照ください。

### 👉 本作業で得られるもの:

- 目標が設定される流域にあるすべての活動(関連するサイトおよびアウトプット値を含む)の表。

1

2

3



## 7 ベースラインを計算する

流域に含まれるすべての活動を特定したので、それらの(合算した)ベースラインを計算してください。ベースラインとは、改善を実施する前に、活動が定義された場所(流域)の環境に与える初期の圧力(取水量または汚染物質負荷量)を指します。

ステップ 1b をどのように完了したかによっては、ベースライン情報がすでにある可能性があります。この時点でより正確な計算で再計算する必要がある可能性もあります。

流域内の各サイトまたは活動のベースラインを計算または推定してください。

直接操業からの**水量**圧力と**水源水質**圧力は、水道メーターやセンサーから取得できる一次データから計算する必要があります(must)。その他のすべての圧力については、一次データが推奨されますが、必須ではありません(not required) (必要に応じて二次データを使用可能です)。過去5年間の運用データを使用してベースラインを計算してください。全期間のデータが利用できない場合は、5年未満の期間を使用できます。目標を達成するために流域内で行動を開始したら、二次データから推定されたベースラインを一次データに置き換えることが可能です。

データの出所によっては、取水と汚染物質負荷は、月次データ、年次データ、または濃度で測定(または推定)することができます。

月次データを取得するには時間がかかりますが、月次目標を設定することで、季節的な水の変化を考慮して最も重要な月にアクションを集中させ、リソースをより効率的に使用できるようになります。

この時点から、ステップ 5 ではベースラインの測定方法に応じて異なる方法を使用して進捗状況を推定するため、一次データと二次データを分離しておく必要があります(must)。直接操業と上流データも常に分離しておく必要がある(must)ことに注意してください。

流域内の全活動から生成されたベースライン圧力を集計して記録してください。



### 今後の見通し:

- 各流域の各圧力カテゴリに対して、最大4つの異なる目標を設定することが可能です。これは、一次データと二次データをそれぞれ使用し、直接操業と上流の影響を考慮した4つの異なるベースラインを設定可能にするためです。



### 本作業で得られるもの:

- 流域内の全活動の個別および集計されたベースライン圧力(取水量または汚染物質負荷)の記録。



# ステップ3C: 環境閾値をどのように特定すれば良いか?

作業

## 8 流域のモデルアプローチを適用する

流域全体のベースラインを記録した後に、ステップ 3aで選択したモデルを使用して、その地域の水文学について理解を進めましょう。

水量目標の場合、現在の河川流量、自然河川流量、環境流量要件の3つのデータポイントが必要です。使用している流域とモデルによっては、モデルにこの情報がすべてすでに含まれている場合があります。

- **現在の河川流量**は、流域で観測された水の量を反映しています。言い換えれば、川によって運ばれる水の量、または帯水層や湖に蓄えられる水の量を示します。
- **自然河川流量**はモデル化され、理論上の変更されていない水流の状態を表しており、平均的な年、および人間が使用するために水が汲み上げられていない自然な状態での流域の水流を反映しています。
- 上記の2つの点から、人間の使用によって流域から除去される水量を推測することが可能です。
- **環境流量要件**は、適切な生態学的条件を維持するために川に本来あるべき水量を表します。

水質目標の場合、流域について収集する必要があるデータポイントは、許容上限栄養負荷量と現在の栄養負荷（流域内の制限栄養塩）の2つだけです。

- **許容上限栄養負荷量**とは、富栄養化の問題を引き起こす前に生態系に存在できる窒素とリンの栄養濃度の最大量を表します。

McDowell (2020) モデルを使用している場合、これらの濃度は窒素で 0.80 mg/L、リンで 0.046 mg/L となります。ローカルモデルを使用している場合は、地域の生態系条件に応じて異なる濃度が考慮されることがあります。

- ・ **現在の栄養塩負荷**とは、生態系内で観測された窒素とリンの濃度を指します。この方法では、2つの栄養塩のうち、どちらか一方が他方よりも不足している方の濃度を特定することだけが必要です。これを「制限栄養塩(limiting nutrient)」と呼びます。

たとえば、McDowellによる**水質**のグローバルモデルでは、藻類やシアノバクテリアは通常これらの栄養塩を一定の割合(たとえば、リン1部に対して窒素7部)で必要とするとしています。McDowell (2020) モデルは、流域ごとに制限栄養塩がどれであるかを示します。ローカルモデルでは、地域の条件に応じて異なる比率が使用される場合があります。

#### **留意事項:**

- ・ 他の制限栄養塩の残量が生態系の富栄養化につながることはないため、制限栄養塩の栄養負荷を削減するための目標のみを設定します。

以上のさまざまなデータポイントは、自社が使用しているモデルに含まれていなければなりません。[こちら](#)に、Hogeboom (2020) によるグローバル水量モデルにアクセスするためのインターフェースがあります。このツールを使用した場合、流域の3つのパラメータすべてにすぐにアクセスできます。McDowell (2020) による**グローバル水質**モデルについては、この**一時的なアプリケーション**を使用してデータにアクセスできます。

ローカルモデルを使用している場合は、このデータを取得するために水文学の専門家に頼る必要がある場合があります。使用しているモデルがこのすべてのデータを提供できない場合、そのモデルは目標設定に適さない可能性があることに注意してください。追加のツールでデータを見つけることができるかどうか、或るいは代わりに別のモデルを使用する必要があるかどうかを確認するには、水文学の専門家に相談する必要があります。また、SBTNやパートナー、または認定チームに連絡して、潜在的なデータギャップを克服する方法を評価することも可能です。

#### **本作業で得られるもの:**

- ・ 流域の水文データ。



## 流域全体の必要な圧力削減を計算する

流域の主要なパラメータをすべて収集したら、次の作業では、流域を健全な状態に戻すために取水量または栄養汚染物質負荷をどの程度削減する必要があるかを計算していただきます。これらの方法は、**必要な流域全体の削減量**と呼ばれ、現在の流域全体の圧力のパーセンテージとして定義されます。



### 留意事項:

- この場合、言及されているのは全体または流域レベルの圧力であり、企業が生態系に及ぼす圧力とは異なります。流域全体の圧力には、企業の圧力だけでなく、他のすべてのステークホルダー（他の企業や地域社会を含む）の圧力も含まれます。

水量目標については、Hogeboom (2020) によるグローバル水量モデルを使用し、**オンライン ツール**にアクセスしている場合は、必要な流域全体の取水量の削減が自動的に提供されます。

グローバル モデルを使用していない場合は、まず環境流量要件から現在の河川流量を差し引いて、流域内の**過剰取水量**を計算してください。次に、自然流量から現在の流量を引いた**現在の取水量**を計算してください。最後に、過剰取水量を現在の取水量で割り、流域全体で**必要な削減量**を計算してください（パーセントで表記）。

$$\text{過剰取水量} = \text{環境流量要件} - \text{現在の流量}$$

$$\text{現在の取水量} = \text{自然流量} - \text{現状の流量}$$

$$\text{流域全体に必要な削減量} = \frac{\text{過剰取水量}}{\text{現在の取水量}}$$

**水質目標**については、まず現在の栄養濃度から最大許容栄養塩濃度を引いた**過剰栄養塩**の濃度を計算してください。次に、過剰栄養濃度を現在の栄養濃度で割って、流域全体で**必要な削減量**を計算してください（これをパーセンテージで表記）。これは制限栄養物質に対してのみ行うことを忘れないでください。

$$\text{過剰栄養塩濃度} = \text{現状の栄養塩濃度} - \text{最大許容栄養濃度}$$

$$\text{流域全体に必要な削減量} = \frac{\text{過剰栄養塩濃度}}{\text{現在の栄養塩濃度}}$$



### 本作業で得られるもの:

- 必要な流域全体の圧力の削減記録。



# ステップ3D: 企業の淡水目標をどのように設定すれば良いか?

作業

## 10 水量と水質の企業目標を設定する

最後に、流域全体の削減のうち自社が負担する割合を計算してください。これは割り当て(allocation)と呼ばれ、割り当てにはさまざまなアプローチがありますが、ネイチャーSBTs手法の最初のリリースでは、取り組みの均一な縮小アプローチのみが使用されます。

本アプローチでは、流域から取水したり、栄養汚染物質を流入させたりする自社とその他のすべてのステークホルダーが、同じ割合で圧力を軽減すると想定しています。

企業の目標を計算するには、流域の集計ベースライン（作業 7）と流域全体に必要な削減率（作業 9）を掛けてください。

企業目標 = ベースライン圧力 x 流域全体に必要な削減量

削減率が 25% 以下の場合、目標期日、つまり削減を達成しなければならない時点は 5 年である必要があります(must)。より野心的な削減を目指す場合、または企業が目標をグローバルな社会的または政策目標、地方または地域の政策目標、または地域の関係者と合意された重要な行動と一致させたい場合、企業は最大10年の目標設定期間を設定することが可能です。



### 今後の見通し:

- 前述のとおり、最大 4 つの異なるベースラインを設定することが可能です（作業 7 を参照）。つまり、この計算を最大 4 回まで別々に実行する必要がある場合があるということになります。



### 本作業で得られるもの:

- 企業の淡水目標。

1

2

3





## 有用なリソース

オンライン目標設定ガイドの[ステップ 3「淡水」リソース](#)に次の資料があります。

- ステップ 3 淡水技術ガイダンス V1.1
- ステップ3 淡水に関する技術FAQ
- モデル選択のためのステークホルダー協議
- The Alliance for Water Stewardship (AWS) スタンダード 2.0
- Context-based water targets initiative (CBWT)
- Hogeboomのグローバル水量アプリ
- McDowellのグローバル水質モデルの結果
- 仮想ケーススタディ - Ursus Nourishment

## 用語集

**取水量と水消費量:** 取水量は、人為的な目的であらゆる水源から環境から除去された水の量を指します。消費量も同様ですが、水の戻り（非消費的な水の使用など）を考慮した純除去量を表します。

**水の利用可能性:** 人間と自然のニーズを満たすために潜在的に利用可能な流量（河川）と水位（湖沼と帯水層）。

**環境流量:** 生態学的プロセスを維持し、生物多様性の生息地を保護するために環境内で必要な最小限の流量。こちらは、水量目標の目標レベルを決定するのに役立つ環境閾値として使用されます。

**淡水への栄養塩負荷:** 人為的要因により環境に追加された栄養塩（窒素とリン）の量。

**淡水の栄養レベル:** 淡水システム内の栄養塩（窒素とリン）の既存濃度。

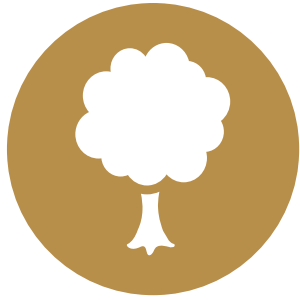
**富栄養化:** 過剰な栄養塩の存在とそれに伴うシステム内の酸素の枯渇によりバイオマスの成長が加速するプロセス。これは、水質目標の目標レベルを決定するのに役立つ環境閾値として使用されます。



3

# ステップ3:

## 土地目標の測定・設定・開示



## 科学に基づく土地目標の設定

企業によるこれらの土地目標の採用は、地球の居住可能な土地の64%を占める耕作地を環境アジェンダに取り込むことにより、企業の自発的な環境責任において飛躍的な進歩となるでしょう。

土地の手法は、土地システムにおける自然目標に貢献する相乗的な行動を促進するために連携して機能するように設計された、3つの目標からなる一連の取り組みです。

- ・ **自然生態系の転換なし目標(The No Conversion of Natural Ecosystems Target)**は、土地利用の変化に対処するものです。この目標を設定する企業は、状況に応じて2025年から2030年の間で変化する目標年以降、2020年に自然とみなされた土地のさらなる転換をすべて回避することになります。

- ・ **土地フットプリント削減目標**は土地利用を対象としており、農地のみ  
に焦点を当てています。この目標を設定する企業は、直接的な事業と上流のバリューチェーンに関連する農地の総面積を削減することになります。

- ・ **ランドスケープエンゲージメント目標**は、土地利用、土地利用の変化、  
土壌汚染など、さまざまな圧力指標に対処することが可能です。本目標  
を設定する企業は、優先ランドスケープにおいて既存の現地パートナー  
と協力し、連携して定義されたさまざまな生態学および社会的指標の  
改善に取り組んでいただきます。

企業は、土地関連の圧力(土地関連の温室効果ガス排出を含む)の重要性、規模、指定経済セクターに基づいて、これらの目標を設定するための要件が異なります。

土地目標のバージョン 1 は、2023 年から 2024 年にかけての企業パイロットテスト期間を経て、2024 年 7 月にリリースされました。この企業マニュアルと同時に発行されるため、次のセクションは簡潔なものとなっています。本セクションでは、土地目標に関連する現在の目標設定アプローチと要件の概要を説明します。追加の説明ガイダンスはマニュアルの今後の更新で提供される予定です。土地目標のバージョン 1 についてはネイチャーSBTsウェブサイトの[リソース](#) セクションで参照可能です。

## 土地ステップ 3 では 生物多様性にどのように 対処しているか？

土地目標は、さまざまなメカニズムを通じて生物多様性の目標に取り組み、貢献します。転換なしの目標は、自然地の定義において生態系の健全性と状態を考慮し、目標年を決定する際に、NCP の実施や絶滅の危機に瀕した生態系と種の保護など、さまざまな地域の重要性を参考にします。土地フットプリント削減目標は、自然の生息地を回復するために利用できる土地を増やすことで、生物多様性に貢献します。ランドスケープエンゲージメント目標により、企業は、地域の状況に最も関連性の高い生物多様性指標、たとえば、生態系の健全性など、地域の状況に応じた生態系の健全性指標を提案する柔軟性が得られます。

/// 転換なしのコミットメントは、当社の現在の森林減少なしのコミットメントをはるかに超えるものであり、ネイチャー SBTs を通じて実現される大きな変化です。 ///

ネイチャー SBTs 2024 パイロット企業

# 自然生態系の転換なし目標

この目標を達成するためには、特定の目標年以降に発生する、(直接操業と上流の)活動に関連するすべての新たな自然生態系の転換を排除し、2020年とこの目標年の間に発生したすべての累積的な自然生態系の転換を修復する必要があります。目標年は、各自然地域の生態学的重要性、バリューチェーンのセグメント、調達するコモディティの種類に応じて、2025年から2030年までの間で異なります。

ネイチャーSBTsでは、2020年時点で生態学的機能が比較的乱されていない生態系で期待されるものと同様か、十分に類似した状態を維持している地域を自然地とみなしています。これには、二次林や半自然放牧地などが含まれます。定義上、非自然地には、単一作物の農業地帯、森林植林地、都市部など、生態学的機能が大幅に変更されたその他のすべての地域が含まれます。

ネイチャーSBTsは、複数の空間情報源を組み合わせるこれらの基準を満たす土地を特定する「自然地マップ」を公開しました。この地図には、生態学的重要性を考慮して目標年が早められている転換ホットスポットを示すレイヤーも含まれます。このマップは、目標年以降の転換が許可されていない土地を特定し、目標年までの累積転換を計算します(目標を設定した基準年の転換を含む)。

これらの手法には、バリューチェーンの詳細な空間情報を取得するという課題を考慮して、評価に統計データを使用する選択肢を含む転換の計算方法に関する具体的なガイダンスが含まれています。要件は、バリューチェーンのセグメントや、直接または間接的にサプライヤーから調達する場合(たとえば、バリューチェーンの最初の集積地点から、またはそれらの下流から)に応じて異なります。特定の地域において、以前から森林伐採防止または転換なしのコミットメントが存在する場合(例えば、ブラジルの大豆モラトリウム)、2020年以前のベースラインを基準として、転換を評価するために代替データセットを参照する必要があります。

目標を提出してから目標年までの間に、目標年以降のすべての転換を停止するように実践を調整するための時間的猶予があります。目標年以降に貴社が責任を負う自然地の転換は、目標の遵守とそれに関連するあらゆる主張の権利を終了させることとなります。

修復を測定して達成するのに役立つ追加ガイダンスを公開する予定です。生態系を機能的な自然の状態に戻すには相当の費用と時間が必要であることを考慮すると、目標年まで待つのではなく、できるだけ早く転換を停止するための措置を直ちに講じることを強くお勧めします。

# 土地利用削減目標

この目標を達成するには、(直接操業および上流の)活動に関連する全体的な土地面積を削減する必要があります。ここでの「農地」とは、製品の生産または調達に必要な、年間ヘクタール単位で測定された土地の総面積を指します。これには、必ずしも貴社が所有または管理するすべての土地が含まれるわけではありません。この目標は、ガイダンスで定義されているように、一定規模以上かつ特定の業種の企業にのみ適用されます。

削減目標は、総量削減(総生産量に対して)または原単位削減(生産量の単位あたり)のいずれかのアプローチを使用して計算してください。目標は、ベースラインに対する毎年の小さな一定の削減(絶対値で 0.35%、または生産量単位あたり 1%)として計算します。土地の方法には、貴社のケースに最も適したアプローチを選択する方法に関するガイダンスが含まれています。

土地フットプリント削減目標は、現在の5つのネイチャーSBTsの中で、必ずしも空間的に明確ではないという点で独特です。ベースラインフットプリントは、直接的で空間的に明確な測定値(たとえば、貴社独自の所在地)と二次的な統計データに基づく推定値(例えば、調達するコモディティの既知の収穫量に基づく値)を組み合わせることで計算してください。



# ランドスケープ エンゲージメント目標

本目標を達成するには、ステップ 2c で定義したように、再生、修復、変革の取り組みを通じて、バリューチェーン内の 1 つまたは複数の主要なランドスケープの生態学的条件を改善する必要があります。

貴社の行動は、地域の持続可能性の問題と目標に対処し、個々のサプライチェーンを超え、ステークホルダーの調整プロセスを支援し、既存の集団行動と計画を補完し、より広範なシステムレベルの変化に貢献するのに役立ちます。

本手法には、この目標のランドスケープを特定するのに役立つ一連の基準が含まれています。本基準では、とりわけ、活動に対するランドスケープの重要性、他のネイチャーSBTsとの潜在的な相乗効果（他の土地、水、気候目標とのコベネフィットなど）が考慮されます。貴社はその地域における既存のイニシアチブを支援することを決定し、その規模、複数のステークホルダーの関与レベル、集団行動と目標の存在、透明な報告システムと情報システムの存在を考慮することができます。あるいは、これらの基準を満たす新しいイニシアチブを立ち上げることを決定することも可能です。

本目標設定作業の開始時に、ランドスケープに関連する指標と測定基準について地元ステークホルダーと合意を取っていただきます。これらの指標は、土地利用と変化、および土壌汚染に関連している必要があります（must）。パートナーと協力して、現状のベースラインを測定し、目標年と目標レベルをどうするかについて合意していただきます。



## 有用なリソース

オンライン目標設定ガイドの[ステップ 3「土地」リソース](#)セクションに次の資料があります。

- ・ [ステップ3 土地技術ガイダンスV1](#)
- ・ [ステップ3 土地補足資料](#)
- ・ [ステップ3 土地に関する技術FAQ](#)
- ・ [自然地マップ](#)

## 用語集

**自然地:** 生態学的機能が、比較的乱されていない生態系で期待されるものと同等か、十分に類似した状態を維持している地域。

**農地:** 製品の生産または調達に必要な土地の総面積(ヘクタール/年)。



# 目標の認定

認定は、ネイチャーSBTsを設定するプロセスにおける重要なステップであり、企業間で比較可能な結果をもたらす標準化されたコンプライアンス評価を順守することで、企業目標の信頼性を保護します。

## 目標認定の概要

ステップ 1: 分析・評価、ステップ 2: 優先順位付け、ステップ 3: 測定、設定、開示を完了次第、認定の提出が可能です。認定では各ステップを順番に提出する必要があります。ステップ 1 とステップ 2 の認定に合格せずにステップ 3 を送信することはできません。本プロセスにより、実施（ステップ 4: 実行）または進捗状況に関する公開クレーム（ステップ 5: 追跡）の前に、要件を正しい順序で正しく実行したことが保証されます。

SBTNは、2023 年半ばから 2024 年半ばにかけて、最初のパイロット企業グループと目標認定機能を試験的に導入し、認定要件が堅牢で実現可能かつ明確であることを確認しました。学習内容と方法の変更の完全なリストは、ネイチャーSBTsの認定パイロットの概要レポートに記載されています。

パイロット企業の知見から得られた主な構造的変化は、SBTNが認定機能を暫定的にアカウントビリティ・アクセラレーター（Accountability Accelerator）に移管するという決定です。これは、他の自発的な企業のサステナビリティ・メカニズムの包括的なベンチマーキングと、アシュランス（保証）およびクレーム（主張）に関するベスト・プラクティス（特にISEAL Codes of Good Practice）の研究を補完するものでした。

この暫定期間中、認定プロセスとガイダンスの調整を継続しながら、認定はアカウントビリティ・アクセラレーターによって独立して実行されます。これは、整合性評議会(Integrity Council)と学習委員会(Learning Committee)という 2 つの新しい統治機関の設立によってサポートされます。整合性評議会は、認定機能の最高ガバナンス機関として機能し、すべての認定活動において適正な手続きが遵守されることを保証し、戦略的な認定決定を承認し、苦情および異議申し立てのプロセスにおいて積極的な役割を果たします。学習委員会は、アカウントビリティアクセラレーターと SBTN 間をつなぐ網として機能し、認定の学習が方法論開発者に渡され、その逆も行われるようにします。この組織は、SBTNと認定機能との主な交流機関となります。

SBTN は、この暫定フェーズでアカウントビリティ・アクセラレーターから得た学びと、認定モデル の選択領域のさらなる探索を組み合わせ、長期的な認定モデルに反映させます。

# 目標認定プロセスがどのように機能しているか

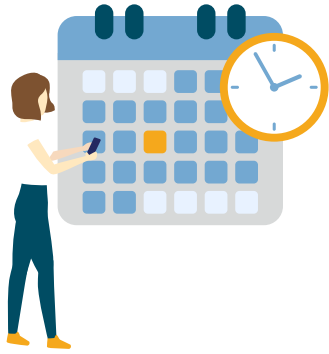
科学に基づく目標の認定とは、企業の提出文書を専門家が審査し、ネイチャーSBTs手法に概説されているすべての要件を満たしていることを確認する独立したプロセスです。

これは主に、提出書類および添付書類で貴社が提供した証拠資料の机上レビューを通じて実行されます。貴社と認定者間で行われたクエリログおよび確認のための電話は、認定の意思決定に資する追加情報の収集に使用されます。

すべての情報はオンラインで送信されます。

新しい認定サービスでは、評価を実施するために必要な能力とリソースに応じて、企業がステップごとに支払うコスト回収費用が発生します。これらの資金は、アカウントビリティ・アクセラレーター認定機能内に確保されており、SBTN 方法論開発活動とは完全に分離されています。認定サービスに関する詳細は、今後公開される予定です。SBTNとアカウントビリティ・アクセラレーターは、2024年後半に開始予定の認定プロセスのガバナンスについて共同で取り組んでいます。





## 認定を申請する:

- 今後の申請および提出プロセスは、認定サービスが完全に確立され次第、正式に発表される予定です。
- アカウンタビリティ・アクセラレーターはサービスを設定しており、認定のために送信する方法については近日中に発表する予定です。



## 認定フォームに記入し送信する:

- 認定が受け入れられたら、貴社提出フォームに記入し、データテンプレートを使用して方法ごとに情報を整理し、認定のために提出するために必要なすべての補足証拠資料を集めることが推奨されます。アカウンタビリティ・アクセラレーターは、企業にとってこのプロセスを容易にし、認定プロセスを最初から最後まで全体的に支援するための認定プラットフォームの開発に取り組んでいます。認定者とのすべての通信はこのシステム上で行われるため、データのセキュリティと機密性が確保されます。
- 提出前に既存のネイチャーSBTsツールとサポート資料を参照して要件に準拠していることを確認し、認定に合格する可能性を最大限に高めることをお勧めします。
  - ネイチャーSBTsの要件と推奨事項
  - ネイチャーSBTs 自己評価ツール



## 認定担当が提出内容を評価:

- 認定チームの担当者が、まず提出書類の完全性について初期審査を実施し、その後、企業の提出書類と補足証拠の徹底的なデスクレビューに着手します。
- スクリーニングに合格した後、SBTNの利益相反ポリシー(開発中)に概説されている基準と、利用可能なキャパシティに基づいて、認定担当が貴社に割り当てられます。
- 認定が開始されると、クエリログが認定プラットフォーム上にホストされ、認定者とお客様の会社との間で双方向の通話が行われ、クエリがタイムリーに処理されるようになります。認定評価を完了するために必要な追加情報や説明が求められる場合もあります。



## 認定結果を企業に通知:

- 結果として、企業が要件を満たした(認定に合格した)箇所、または要件を満たさなかった(結果として認定に合格しなかった)箇所に関するフィードバックを概説した詳細な認定レポートが作成されます。
- 貴社がすべての要件を満たしていない場合は、再提出サービスを利用する必要があります。



## 認定に合格すると、企業はクレームを行うことができます。

- 承認された目標は、ネイチャーSBTsの今後の目標トラッカーに公開されます。これは、企業が目標を外部に発表できる瞬間です。
- 外部コミュニケーションの正確性、一貫性、透明性を確保するため、ネイチャーSBTsの今後のクレームガイダンスを使用いただく必要があります(must)。これは、グリーンウォッシングの实在するまたは認知されたリスクを軽減する上で重要な機能です。
- 承認日から6か月以内に、貴社の承認された目標をSBTNのウェブサイト上で公表する必要があります。この期間を過ぎても公表されていない目標は、再提出する必要があります。

# 目標の再計算

## 必須の目標再計算:

最新の科学とベストプラクティスとの一貫性を確保するには、目標を見直し、必要に応じて少なくとも 5 年ごとに再計算し再認定される必要があります。

## トリガーされた目標の再計算:

必要に応じて、既存目標の関連性と整合性を損なう可能性のある重大な変更を反映するために、目標を再計算する必要があります。

次の変更により、目標の再計算がトリガーされます:

- 企業の構造と活動における重大な変更(例:買収、売却、合併、インソーシングまたはアウトソーシング、商品またはサービスの提供の変更)。
- データ品質の向上、データソースの変更、または計算方法の変更に起因するベースラインへの大幅な調整。これには、重大なエラーの発見、または集合的に重大な累積エラーの数の発見が含まれます。
- 原単位目標の目標言語で使用される成長予測の大幅な変更。これは現在、土地フットプリント削減目標にのみ適用されます。

- もし貴社がステークホルダーとの協議後に適切な淡水ローカルモデルと閾値を見つけることができず、目標設定と認定にグローバルモデルを使用した場合、一年ごとにネイチャーSBTsの流域閾値ツールを参照して、ローカル水文モデルと閾値が含まれているかどうかを確認する必要があります(must)。新しいモデルと閾値を見つけた場合は、現在の目標がローカルモデルと閾値の適用から得られる目標よりも野心的であることを証明できない限り、それらを使用して目標を設定し、既存の目標を置き換えていただく必要があります(must)。

## 重要な変更点:

目標再計算をトリガーするための閾値として5%の変更ポリシーを適用する必要があります(有意性閾値とも呼ばれます)。これは、GHG 計算、報告、および目標設定におけるベストプラクティスと一致しています。

## 再計算と再認定:

変更または調整が発生した瞬間から最大 1 年以内に、目標を再計算して再認定を得ることを目指してください。

## 方法の妥当性:

ネイチャーSBTsの方法には、更新された方法のリリース後 6 か月の猶予期間があり、新しい方法のリリース日より前に作業していた企業は、以前のバージョンを認定のために提出できることにご注意ください。

# 進捗状況の開示

## 開示頻度:

毎年、企業の圧力指標と公開された目標に対する進捗状況を公表していただきます。

## 進捗状況を開示する場所:

公表された目標に対する進捗状況の開示場所に関する具体的な要件はなく、公にアクセス可能であればどこで開示しても問題ありません。SBTN は、CDP ウォーターおよび/またはフォレストに関する年次質問書などの標準化された比較可能なデータ プラットフォーム、年次レポート、持続可能性レポート、および企業の Web サイトを通じての開示を推奨しています。

## 開示ガイダンス:

信頼できる情報源からの開示ガイダンスを使用することが推奨されます。以下を含みますが、これらに限定されません。

- [アカウンタビリティ・フレームワーク・イニシアチブ \(AFi\)](#)
- [GHGプロトコルの土地セクターおよび除去ガイダンス草案](#)
- [管轄権の主張に関するISEALガイダンス](#)
- [AWS ウォーター・スチュワードシップ国際規格](#)
- [国連グローバル・コンパクト CEO Water Mandate](#)

2025 年の目標達成の開示: 現在のネイチャーSBTsの方法では、直接操業、自然林、転換ホットスポットにおける自然生態系の転換が行われないことを保証する最短の目標年は2025 年です。この必須条件 (requirements)は、[アカウンタビリティ・フレームワーク・イニシアチブ\(AFi\)](#)、[SBTi FLAG](#) 必要条件 (requirements)、および[欧州森林減少規制 \(EUDR\) \(EU 2023/1115\)](#) に準拠しています。この目標の達成状況を開示する準備をする必要があり、この目的のために作成される将来のガイダンスを使用する必要があります。



# 有用なリソース

オンライン目標設定ガイドの[目標認定リソース](#)セクションで、次の資料を見つげられます:

- ・ 2024 認定パイロット概要レポート
- ・ 認定提出フォーム - ステップ 1 と 2
- ・ 認定要件と推奨事項 v1.0
- ・ 認定要件と推奨事項 v1.1





# 今後の 技術ガイダンス



## ステップ3: 海洋目標の測定、設定、開示

SBTNは現在、海洋領域の圧力の目標を設定するためのステップ3の方法を開発しています。最初のバージョンの目標は水産セクターに焦点を当て、その後、海運、沿岸・海洋観光、海洋オフショア再生可能エネルギー、沿岸開発などの他の主要産業からの海洋領域への圧力に拡大する予定です。SBTNは、サプライチェーン全体にわたる企業向けの海洋ガイダンスに重点を置き、特に小売業者と卸売業者を含め、企業が自らの影響を削減すると同時に、有意義な改善イニシアチブに従事するためのガイダンスを開発する予定です。

2025年に、SBTNはステップ3海洋 (v1.0) をリリースし、3つの初期目標のセットを含む予定です。

- 「**過剰漁業の回避と削減**」という目標は、天然漁業を対象としており、企業が過剰に漁獲された資源から得られる商品への依存を回避し、漁業の状態を改善し、過剰漁業を削減するために、海域および管轄区域にエンゲージメントをすることを支援します。
- 「**海洋生態系の保護**」目標は野生漁業と養殖業を対象としており、企業が海洋環境と移行環境の構造的生息地への影響を回避および軽減できるものを含みます。
- 「**漁業影響からETP種を保護する**」目標は、天然漁業を対象とし、野生捕獲漁業による絶滅危惧種、危急種、保護種(ETP: endangered, threatened, and protected)の海洋野生生物への影響に対処します。これが、より広範な海洋産業によるすべての海洋生物への影響に対処する将来の目標ガイダンスの基礎となる可能性があります。

ステップ3の海洋の方法は、ステップ1と2の既存のガイダンス、その他のSBTNリソース、外部標準、認証、および企業の目標に基づいて構築されます。これらには、沿岸や河口環境など、他のネイチャーSBTs領域にまたがる可能性のある事業を企業向けに明確に示すガイダンスが付随します。

本目標は、水産物に関連する淡水域の圧力もカバーし、他の方法と同様に、直接操業と上流のバリューチェーンに対処するものとなります。

# ステークホルダーエンゲージメントガイダンス

自然の損失と劣化に対処するためのあらゆるエンゲージメントを成功させるには、ステークホルダーの関与が不可欠です。2023年、SBTNはステークホルダーエンゲージメントガイダンス (v0.1) をリリースしました。こちらは、科学に基づく目標を設定する企業を支援することを目的としており、目標設定方法の実施に含めるべきベストプラクティスに基づくガイダンスとリソースを提供しています。SBTN は 2024 年に、専門家のレビュー担当者のフィードバックやその他のステークホルダーの意見を取り入れた本ガイダンスの改訂版をリリースする予定です。

本ガイダンスは、貴社の活動やバリューチェーンによって(直接的または間接的に)プラスまたはマイナスの影響を受ける先住民族、地域社会、その他のステークホルダーの知識と潜在的な貢献をどのように関与させ、認識するかについて重点を置いています。重要なのは、影響を受けるステークホルダーには、貴社の従業員だけでなく、バリューチェーンの他のすべてのセグメントの労働者も含まれるということです。

先住民族やその他の影響を受けるステークホルダーを目標設定と評価に参加させることで、国連のビジネスと人権に関する指導原則 (UNGP) と OECD の責任ある企業行動ガイドライン (人々と地球へのインパクトに関する責任ある企業行動の国際的かつ権威ある基準) に定められた責任を果たすことも可能です。本ガイダンスは、国連先住民族の権利宣言に定められた先住民族の権利を擁護し、生物多様性条約の昆明・モントリオール生物多様性枠組などのグローバルな枠組みに貢献するのに役立ちます。これにより、貴社の行動基準を、これらの国際基準(例えば、欧州サステナビリティ報告基準やグローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI) )に基づく増えつつあるデュー・ディリジェンス規制や報告要件に合わせるできるようになります。



本ガイダンスでは、これらのステークホルダーと関わる際に考慮すべき重要な点について説明しており、目標設定プロセスにおける彼らの知識の価値と潜在的な貢献を常に認識しています。ガイダンスを実装されると、次のことが可能になります：

- 結果に最も直接影響を受ける人々にとって信頼できると思われる目標を設定する
- データの収集、分析、学習に関してステークホルダーとパートナーシップを形成する
- 科学に基づく目標の達成に向けた共同アクションの構築に貢献する先住民族やその他の影響を受けるステークホルダーとの関係を確立する
- 明確で透明な測定と評価に基づいて、目標設定の結果に対する説明責任を構築する
- 自然と気候に関する戦略における評判、倫理、法律、操業、規制に関するリスクを軽減する

目標設定の過程で、ステークホルダーエンゲージメントガイダンスを活用することを強くお勧めします。ガイダンスは 4 つのセクションに分かれています：

- 1** 協働するさまざまなステークホルダーグループを特定し、各グループの内部の交差性や異質性などの要素を理解する方法に関するガイダンス
- 2** 準備作業、ステークホルダーのマッピング、設計と実行、参加の実現に関連する、ネイチャー SBTs のステップ 1、2、4 を支援する主要な概念とアプローチ
- 3** ステップ 3 と 5 を実行する際に影響を受けるステークホルダーの意見を統合する方法と、プロセスで発生する可能性のある潜在的な利益相反やトレードオフを特定して対処する方法に関するアドバイス
- 4** ステークホルダーエンゲージメントを評価する方法に関するガイダンス。これには、目標達成への潜在的な貢献を評価するための指標や、ガイダンスと改善の機会を特定する方法に関するガイダンスが含まれます。



# 4 ステップ4: 行動

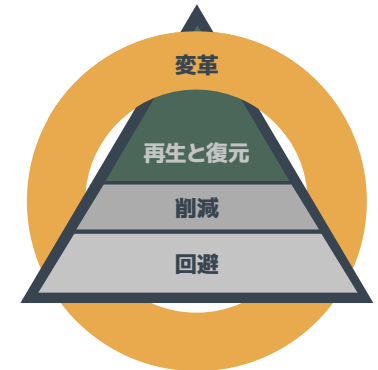
私たちがネイチャーポジティブな世界で暮らしたいと望むのであれば、すべての人が緊急かつ意欲的に行動する必要があります。ネイチャーSBTsのビジネス向け初期ガイダンス（2020）では、アクションフレームワーク（AR3T）を導入しました。AR3Tフレームワークは、国際金融公社(IFC)のパフォーマンス基準 6 に定められたミティゲーションヒエラルキーに基づいて開発され、企業の行動の一般的なフレームワークとして使用されています。これを AR3T と呼ぶのは、次のアクションをカバーしているためです：

- ・ 自然喪失への直接要因を回避および軽減する；
- ・ 自然が回復できるように再生と復元を行う
- ・ 企業が組み込まれている基礎システムを変革し、自然損失の原因に対処する

目標の実施に関する詳細なガイダンス（ステップ 4: 行動）は、2023 年のリリースには含まれていません。しかし、淡水と土地の方法では、一部の企業活動の結果として自然と人々に予期せぬ結果をもたらす可能性があることを考慮して、目標の実施に対する企業の対応選択肢の例をいくつか検討してください。この文脈において、対応選択肢というのはネイチャーSBTs(自然に関する科学に基づく目標)を実施する際に 自然の状態の改善に向けて前進するために企業がとることができる行動(その達成は目標指標に反映される可能性が高い)を指します。

**対応選択肢データベース (Response Options Database)** は、企業が現地の自然に変化をもたらす行動をとるための初期リソースを提供しています。これは予備的な取り組みであり、より包括的なステップ 4: 行動 のガイダンスは現在開発中です。

企業の対応選択肢に関しては、ステップ 3 淡水の量と質の目標、およびステップ 3 土地の転換なしと土地フットプリントの削減の目標では、主に回避と削減の行動に焦点を当てていますが、ランドスケープエンゲージメントの目標は主に再生と復元のアクションを推進します。いずれの場合も、AR3T フレームワーク全体を実装することで、企業はより効果的に目標を達成し、ランドスケープにプラスの長期的な変化をもたらすことが可能です。**ネイチャーSBTsのインタラクティブフレームワーク**を使用して、自然に関する科学に基づく目標を実施する際に企業がとることができる行動の種類を確認してください。



ステップ 4 のガイダンスが開発されている間、ネイチャーSBTs初期目標認定パイロットに参加している企業は、地域固有の企業行動計画の開発について情報を提供しています。これらの計画は、企業が各目標をどのように達成するつもりかを説明しており、行動の優先順位付け、地元のステークホルダーとの連携、主要業績評価指標(KPI)の追跡と報告、および実装全体のリソース確保の4つのセクションで構成されています。

これらの行動計画は、企業が目標を達成するための推奨事項であり、企業が目標を達成するために十分なリソースと計画を確保するのに役立ちます。本企業行動計画は、ステップ 4: 行動の今後の技術ガイダンスに情報を提供し、その一部となる可能性があります。

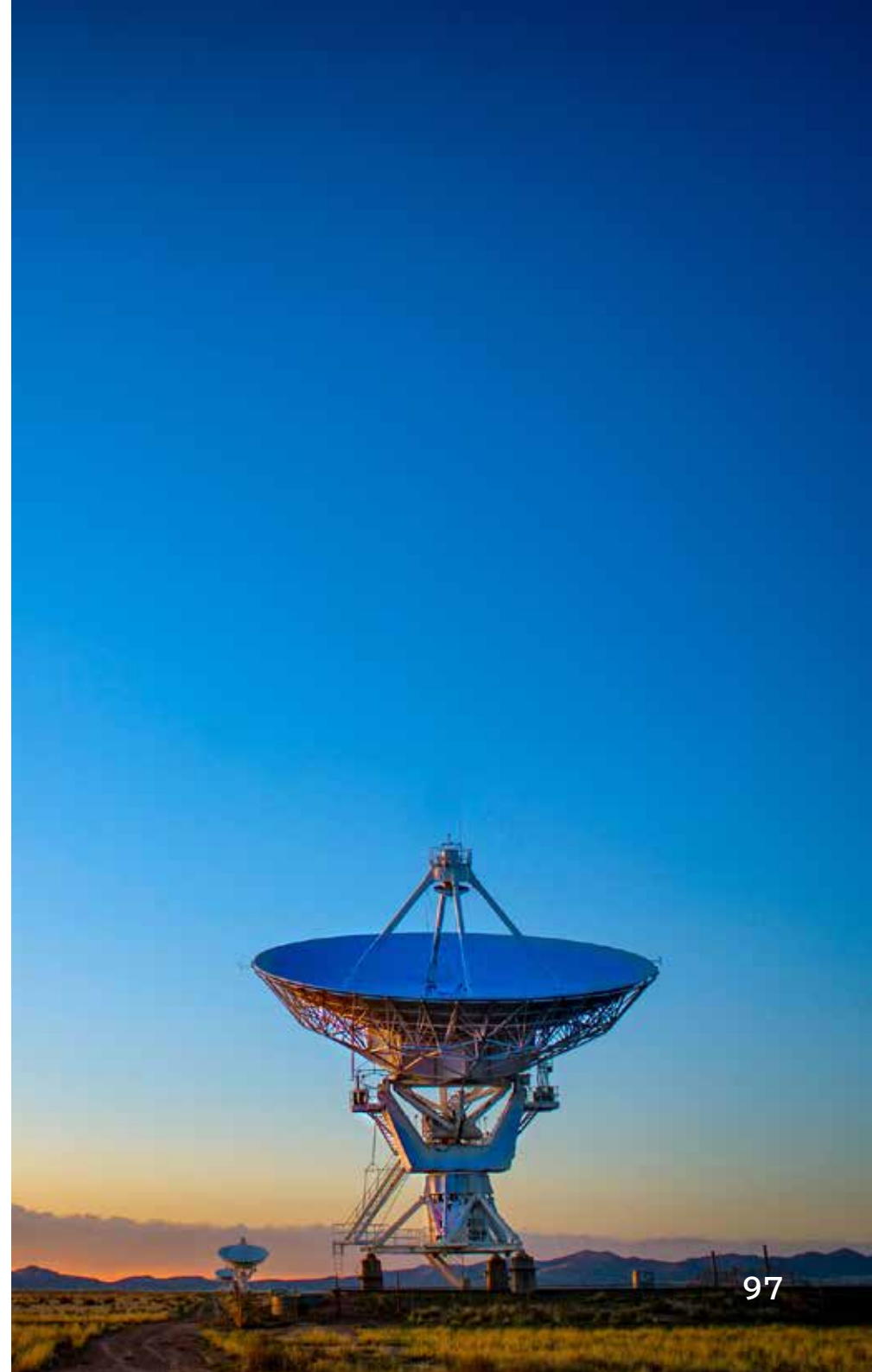
# 5 ステップ5: 追跡

ステップ 5: 追跡では、測定、報告、検証（MRV）活動に重点を置きます。これらの活動はSBTNプロセスの 5 つのステップを通じて行われ、指標の選択とベースライン測定のためのガイダンスは、ステップ 1、ステップ 2、ステップ 3 淡水、ステップ 3 土地の既存のガイダンスの一部です。

SBTN は現在、ステップ 3 淡水およびステップ 3 土地の認定に関連するクレームガイダンスを開発中です。しかし、企業の説明責任と目標の完全性を保つためには公開が不可欠であり、我々はプロセスのすべてのステップを通じてそれを奨励しています。ネイチャーSBTs2023パイロットに参加している企業は、企業行動計画の一環として、特にKPIなどMRV、データ収集、データ分析、進捗状況の潜在的な開示に関するソリューションを提案しています。

技術ガイダンスが拡大し、さらなる圧力や自然の状態、海洋などの領域が追加されるにつれて、指標と方法一式も拡大していきます。SBTN は、既存の報告および開示インフラを適用範囲として、パートナーと協力してこれらのニーズに応える MRV システムの範囲を定めています。これが標準化され次第、ステップ 5: 追跡に関する特定の技術ガイダンスを公開する予定です。

詳しい情報は[こちら](#)をご覧ください。



An aerial photograph of a vast, green agricultural landscape. A winding dirt road cuts through the fields, leading towards a bright sunset on the horizon. The sun is low, creating a warm, golden glow across the sky and casting long, soft shadows on the terrain. The fields are lush and green, with visible furrows and patterns from farming. The overall mood is serene and hopeful, symbolizing growth and a bright future.

# 今後の展望

本マニュアルを読んでいただくことで、ネイチャーSBTsを設定する方法を明確に理解し、技術スタッフや外部コンサルタントに目標設定プロセスを詳細に説明するための自信が得られることを願っています。目標の設定と認定の方法と要件を完全に理解するにはガイダンスをご参照ください ([ネイチャーSBTsのリソース ライブラリ](#))。

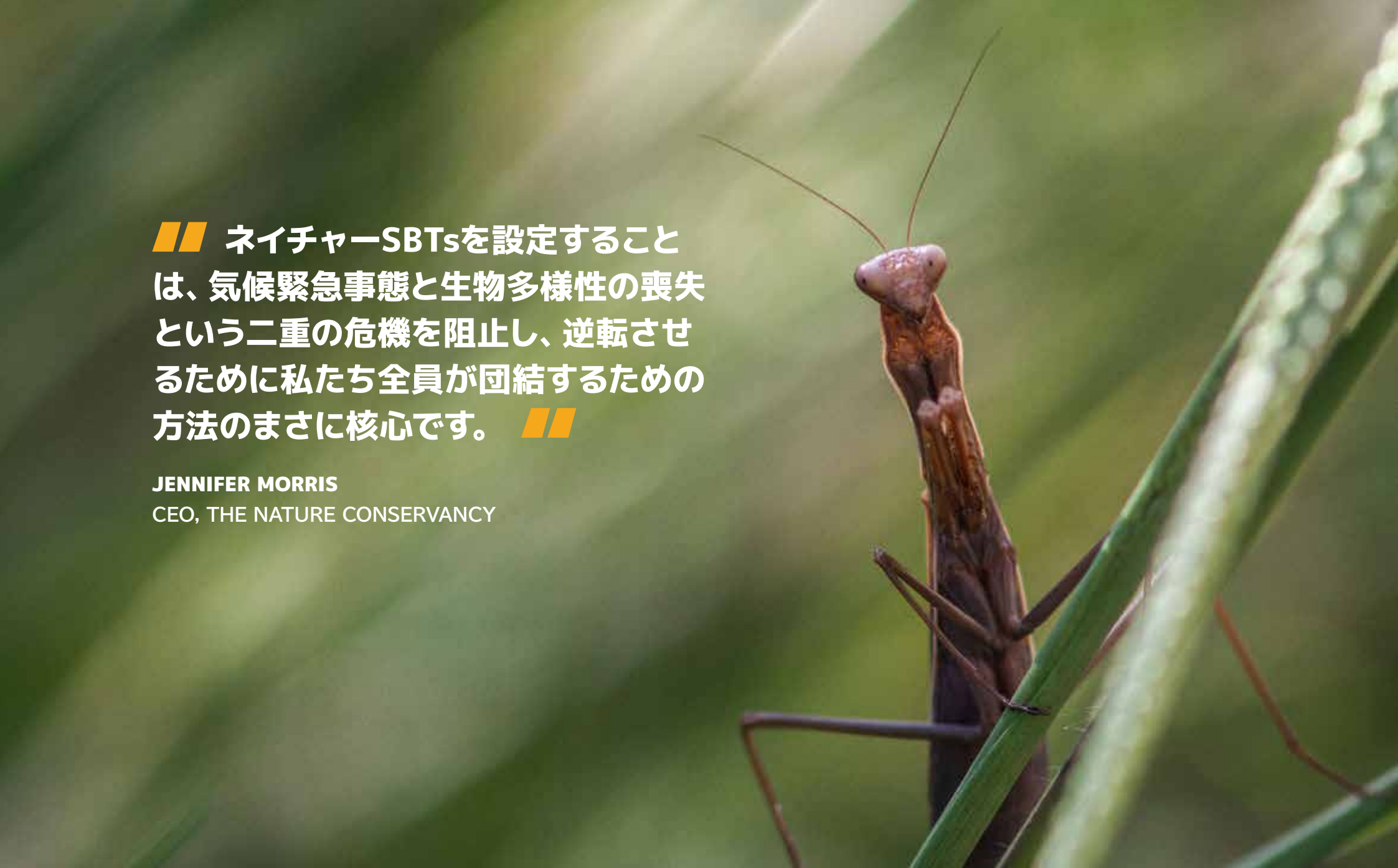
また、我々の[オンライン目標設定ガイド](#)を通じて、この企業マニュアルのインタラクティブバージョンもぜひご確認ください。これには、組織がネイチャーSBTsを設定する準備を支援するための、[開始方法](#)セクションの追加コンテンツも含まれます。

自然に対する将来のネイチャーSBTsの策定支援のために、[ネイチャーSBTsの企業エンゲージメント プログラム](#)に企業、コンサルタント、業界連合が参加するよう呼びかけています。企業が拠点を置く地域社会における環境と社会の回復力を強化し、自然に優しい未来の実現に貢献できるように、貴社には変革を先導していただきます。

## 今後の情報とサポート:

- すべての主要ドキュメントとツールにアクセスするには、まず [SBTNのリソースライブラリ](#) にアクセスしてください。
- [オンライン目標設定ガイド](#)で追加コンテンツをご覧ください。
- 方法別にまとめられた、Web サイトの[技術に関する FAQ](#) を参照してください。
- SBTN企業エンゲージメントチーム [corporate-engagement@sbtnetwork.org](mailto:corporate-engagement@sbtnetwork.org) へお問い合わせください。
- より専門的なサポートが必要な場合は、SBTN の[専門アドバイザーのグローバルネットワーク](#)にご相談ください。





**/// ネイチャーSBTsを設定することは、気候緊急事態と生物多様性の喪失という二重の危機を阻止し、逆転させるために私たち全員が団結するための方法のまさに核心です。 ///**

**JENNIFER MORRIS**

CEO, THE NATURE CONSERVANCY

# クレジットと謝辞

## 筆頭筆者

Oscar Sabag、SBTネットワーク

## 寄稿者

Arabella Stickels (SBTネットワーク)

Sarah Bausmith (SBTネットワーク)

Varsha Vijay (SBTネットワーク)

Paola Luna Delgado (SBTネットワーク)

David Little (BCG)

Jessica McGlyn (SBTネットワーク)

## プロジェクト管理

Sarah Bausmith (SBTネットワーク)

## 編集

コンテンツ制作企業

## デザイン

ピクセル&パルプ

このガイダンスの作成に貢献してくださったすべてのステークホルダーに感謝します。これらの資料の複数回の反復レビューと開発に貢献いただいた以下の方々に感謝の意を表します。

Corporate Manual Focus Group

SBTN Issue Hubs

Better Earth

## 帰属

ユーザーは、ネイチャーSBTs 企業マニュアルに関連するあらゆる出版物や分析において、派生形式やフォーマットを問わず、次の引用が常に明確に再現されるようにする必要があります: Science Based Targets Network (2024). Corporate Manual。 [こちら](#)から入手可能です。すべての参考文献、データ、ツールは、それぞれの利用規約に従って引用する必要があります。